2-588-601-**02**(1)

SONY

取扱説明書

MZ-RH10

Hi-MD Walkman

Portable MD Recorder

Hi-MD AUDIO　MiniDisc　Net MD　MDLP

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

WALKMAN

お問合せ窓口のご案内

本機についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには ⇨ パーソナルオーディオ・カスタマーサポートへ**
  (http://www.sony.co.jp/support-pa/)
  本機に関する最新サポート情報や、お問合せが多い質問と回答をご案内しています。
- **電話・FAXでのお問い合わせは ⇨ お客様ご相談センターへ（下記参照）**
  - 本機の商品カテゴリーは[オーディオ]−[ウォークマン]です。
  - お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。
    ◆ セット本体に関するご質問時：
    - 型名：MZ-RH10
    - シリアル番号：記載位置は別紙「カスタマー登録のお願い」を参照
    - ご相談内容：できるだけ詳しく
    - お買い上げ年月日

    ◆ 付属のソフトウェアに関連するご質問時：
    - ソフトウェアのバージョン：
    - お使いのパソコン（メーカー名／型名）
    - パソコンにインストールされているOS名：
    - メモリ容量／ハードディスクの空き容量：
    - CD-ROMドライブの型名／種類（外付けまたは内蔵）：
    - エラーメッセージ（エラーメッセージが表示された場合）：

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル …………… 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は…03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX …………………………… 0466-31-2595

受付時間 ：月〜金 9:00〜20:00　土・日・祝日 9:00〜17:00
お電話は自動音声応答にてお受けしています。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

この説明書は100%古紙再生紙を使用しています。

Sony Corporation　Printed in Malaysia

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

8～12ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

定期的に点検する

1年に1度は、ACパワーアダプターのプラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、ACパワーアダプターや充電スタンドなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

➡

❶ 電源を切る

❷ ACパワーアダプターをコンセントから抜く/パソコンから専用USBケーブルを抜く

❸ お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

分解禁止

行為を指示する記号

強制

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- 本製品およびパソコンの不具合により、録音やダウンロードができなかった場合および音楽データが破損または消去された場合、データの内容の補償についてはご容赦ください。
- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。
（お問い合わせ先　（社）私的録音補償金管理協会　Tel.03-5353-0336）

- “ウォークマン”、“WALKMAN”はヘッドホンステレオ商品を表すソニー株式会社の登録商標です。 はソニー株式会社の登録商標です。
- SonicStageはソニー株式会社の登録商標です。
- MD Simple Burner、OpenMG、Hi-MD、Net MD、ATRAC、ATRAC3、ATRAC3plusおよびそれぞれのロゴはソニー株式会社の商標です。
- MicrosoftおよびWindows、Windows NT、Windows Mediaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標、または商標です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

本機でできることと付属のマニュアルについて

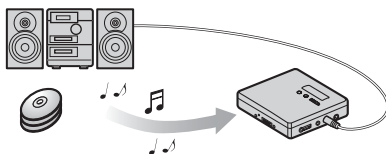
このページでは、ポータブルMDレコーダーでできることとマニュアルについて説明しています。下記を参照して、必要なマニュアルをお使いください。

Hi-MDについて知る

「Hi-MD」とは、従来のMDフォーマットが進化した新しいMDのフォーマットです。

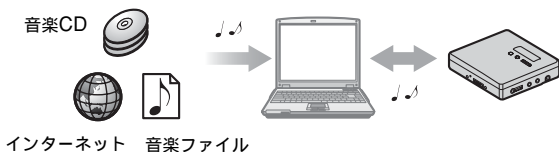
「Hi-MDウォークマンでこんなことができます」
Hi-MDウォークマンの主な特長や、従来のMDウォークマンとの違いを説明しています。

本機を使う

本体にCDプレーヤーやマイクなどをつないで録音し、録音したものを再生して楽しむことができます。

取扱説明書（本書）
本機の操作全般について説明しています。
本機を操作中に問題が起きたり、メッセージが表示されたときの対処方法も記載しています。

➡ **困ったことがあったとき、もっと知りたいときは**
取扱説明書（本書）の「困ったときは」や「MD知っ得Q&A」（80ページから）をご覧ください。

パソコンで付属のソフトウェアを使う

本機に付属しているソフトウェアSonicStageを使って、本体とパソコンの間で音楽データを転送することができます。
MD Simple Burnerを使って、本体に音楽データを録音することができます。

パソコンから音楽を転送しよう！

SonicStage/MD Simple Burnerインストール・操作ガイド

付属のソフトウェア（SonicStage/MD Simple Burner）の使い方について説明しています。

SonicStageヘルプ

パソコンの画面で見る電子マニュアルです。付属のソフトウェアSonicStageの中に入っています。
SonicStageの使い方について、「インストール・操作ガイド」よりもさらに詳しく説明しています。また、SonicStageをご使用中に困ったことがあった場合も、こちらをご覧ください。

パーソナルオーディオカスタマーサポート

インターネット上のホームページです。
本機と付属のソフトウェアの最新サポート情報や、Hi-MDウォークマンの活用方法を見ることができます。
http://www.sony.co.jp/support-pa/

目次

基本編

準備する

基本的な使い方

応用編

操作を始める前に

いろいろな録音のしかた

いろいろな再生のしかた

編集する

各種設定

パソコンとつないで使う

その他

困ったときは・Q&A

困ったときは

MD知っ得Q&A

火災

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**大けが**の原因となります。

運転中は使用しない

- 自動車、オートバイなどの運転をしながらヘッドホンやイヤホンなどを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に十分にご注意ください。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因になります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐにスイッチを切り、ACパワーアダプターをコンセントから抜き、パソコンから専用USBケーブルを外して、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

感電の原因となります。

指定以外の充電スタンド、ACパワーアダプター、カーバッテリーコードなどを使わない

破裂・液漏れや過熱などにより、火災、けがや周囲の汚損の原因となります。

内部をむやみに開けない

本体および付属の機器は、むやみに開けたり改造したりすると火災や感電の原因となります。

ぬれた手でACパワーアダプターや充電スタンドをさわらない

感電の原因となることがあります。

本体やACパワーアダプター、充電スタンドを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

禁止

火のそばや炎天下などで充電・放置しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

禁止

充電スタンドの上に金属を置かない

充電スタンドの端子が金属とつながるとショートし、発熱することがあります。

禁止

金属類と一緒に本体を携帯・保管しない

コイン、キーネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管すると、ショートし、発熱することがあります。

禁止

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

大音量で長時間続けて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるぐらいの音量で聞きましょう。

禁止

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。とくに、MD、CDやDATなど、雑音の少ないデジタル機器をヘッドホンで聞くときにはご注意ください。

禁止

通電中のACパワーアダプターや充電スタンド、製品に長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。

禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記のことを必ずお守りください。

本機では下記の電池が使えます。電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。

充電式電池
ニッケル水素

乾電池
アルカリ

⚠危険　充電式電池、乾電池が液漏れしたときは

充電式電池、乾電池の液が漏れたときは素手で液を触らない
液が本体内部に残ることがあるため、お客様ご相談センターまたはソニーサービス窓口にご相談ください。

液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

⚠危険　充電式電池について

- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 指定された充電スタンド、ACパワーアダプターなど取扱説明書で説明されている方法以外で充電しない。
- 充電式電池用キャリングケースが付属されている場合は、必ずキャリングケースに入れて携帯・保管する。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 指定された種類以外の充電式電池は使用しない。
- 使い切った電池は取りはずす。長時間使用しないときも取りはずす。
- 種類の違う電池を混ぜて使わない。

⚠警告　乾電池について

- 小さい電池は飲み込む恐れがあるので、乳幼児の手の届くところに置かない。万が一飲み込んだ場合は、窒息や胃などへの障害の原因になるので、直ちに医師に相談する。
- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 使い切った電池は取りはずす。長時間使用しないときや交流電源で使用するときも取りはずす。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。
- 乾電池の＋と－、または乾電池ケースの端子と本体の乾電池ケース用の端子が金属とつながるとショートし、発熱することがあります。

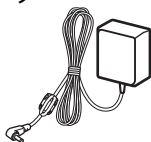
⚠注意　乾電池について

- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 外層のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 指定された種類以外の電池は使用しない。

お願い

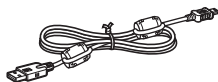
使用済み充電式電池は貴重な資源です。端子（金属部分）にテープを貼るなどの処理をして、充電式電池リサイクル協力店にご持参ください。

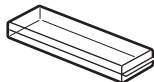
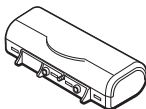
付属品を確かめる

●ACパワーアダプター

●充電スタンド

●リモコン

●ヘッドホン

●専用USBケーブル

●充電式ニッケル水素電池NH-14WM

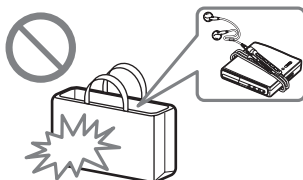
●充電池ケース

●乾電池ケース

●フェライトコア（3個：付属リモコン用、別売りステレオマイク用、別売りアナログ接続コード用）
●キャリングポーチ
●MZ-RH10 取扱説明書
●CD-ROM（SonicStage/MD Simple Burner）*
●パソコンから音楽を転送しよう！
SonicStage/MD Simple Burnerインストール・操作ガイド
●保証書
●ソニーご相談窓口のご案内
●カスタマー登録のお願い

* CD-ROMは音楽CDプレーヤーで再生しないでください。

ご注意

本機をお使いになるときは、キャビネットの変形や故障を防ぐために、次のことを必ずお守りください。

- 本機をズボンなどの後ろのポケットに入れて座らない。

- 本体にリモコン／ヘッドホンを巻き付けたまま、かばんの中に入れ、外から大きな力を加えない。

付属のフェライトコアの使いかた

本機をパソコンに接続して使うときは、下記の手順でフェライトコアを付けてください。パソコンに接続しないで使うときには、付けなくても問題はありません。情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づき、周囲の機器への障害を防ぐためのものです。

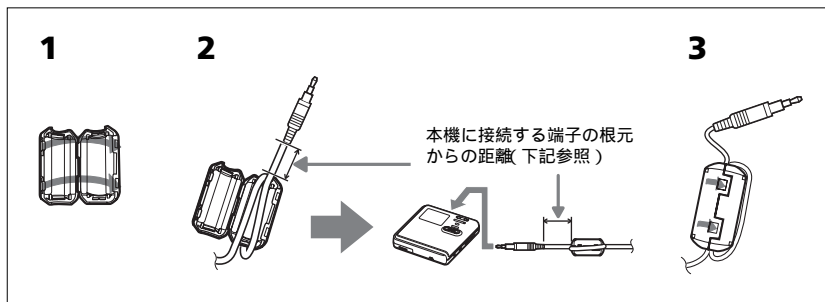
- 付属リモコン用：ESD-SR-110

付属のリモコンのコードに付けます。

- 別売りステレオマイク用：ESD-SR-110

マイク録音時、別売りステレオマイク（ECM-MS907/MS957）のコードに付けます。

- 別売りアナログ接続コード用：ESD-SR-110

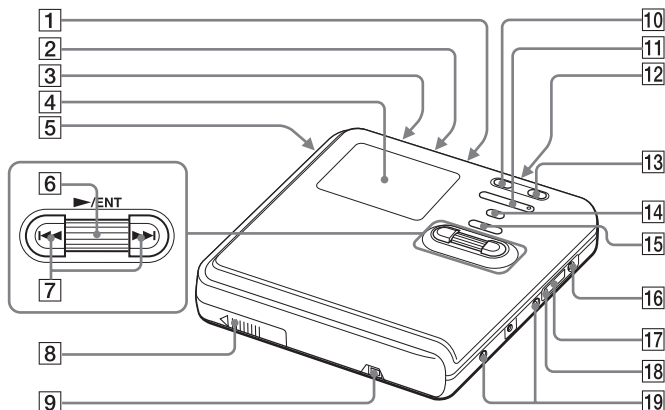
アナログ録音時、別売りアナログ接続コード（RK-G129/G136）に付けます。

1 **フェライトコアを開く。**

2 **次のように、コードにフェライトコアを付ける。**

- 付属のリモコンの場合：フェライトコアにコードを1回巻き付ける、距離は約4cm
- 別売りステレオマイクの場合：フェライトコアにコードを1回巻き付ける、距離は約4cm
- 別売りアナログ接続コードの場合：巻かずにフェライトコアの中にコードを通す、距離は約1cm

3 **カチッと音がするまでフェライトコアを閉じる。**

各部のなまえ

本体

1 MIC (PLUG IN POWER)ジャック[1]

2 LINE IN (OPT)ジャック

3 HOLDスイッチ
矢印の方向にずらすと、本体の操作ができなくなります。かばんの中などに入れて持ち歩くとき、ボタンが押されて誤動作するのを防ぎます。

4 表示窓

5 OPENつまみ

6 ジョグダイヤル（►（再生）/ENT）

7 ◄◄（頭出し、早戻し）、►►|（頭出し、早送り）ボタン

8 充電池入れ

9 充電スタンド用端子

10 ❚❚（一時停止）ボタン

11 VOL（音量）＋[1]、－ボタン

12 ∩ジャック

13 REC (+►)（録音）/T MARKボタン

14 •SEARCH/•LIGHT/▬MENUボタン[2]

15 ■（停止）・CANCEL/CHGボタン

16 DC IN 3Vジャック

17 USB接続用ジャック

18 USB接続用ジャックのふた

19 乾電池ケース用端子

[1] 凸点（突起）がついています。操作の目印としてお使いください。

[2] •は短く押したときに使える機能で、▬は2秒以上押したときに使える機能です。

表示窓（本体）

1 動作状態表示部
本機の動作状態を次のアイコンで表します。
■：停止
►：再生
❚❚：一時停止
◀◀：早戻し
▶▶：早送り
⏮・⏭：頭出し
REC：録音／録音一時停止

2 選択状態表示部
ディスクの動作モードや再生モード、選択中のメニュー項目などを表示します。

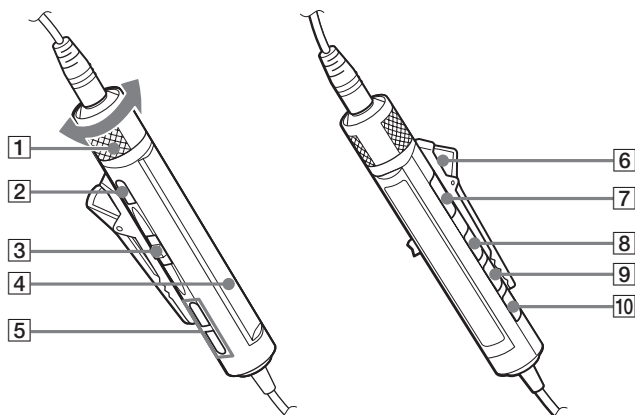
3 電池残量表示
充電式電池の残量の目安を表示します。電池残量が少なくなると、表示が空になり点滅します。

4 曲番、グループ番号表示部
曲番やグループ番号を表示します。

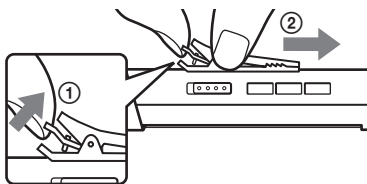
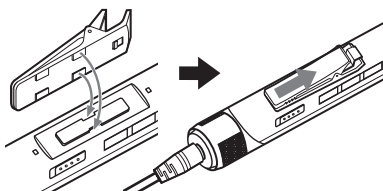
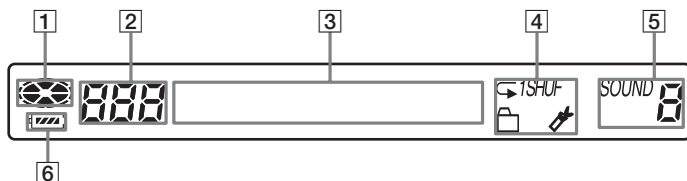
5 文字情報表示部
名前やメニュー項目、エラーメッセージなど、様々な情報を表示します。
名前の情報は次のアイコンで表します。
♫：曲名
👤：アーティスト名*
◎：アルバム名*
📁：グループ名
▣：ディスク名

*Hi-MDモードの場合のみ表示されます。

6 時間表示
曲の経過時間や残り時間などを表示します。

リモコン

1. ボリューム
   VOL（音量）+、−つまみ
2. ■（停止）ボタン
3. ジョグレバー（►II（再生、一時停止）/ENT（決定）・I◄◄（頭出し、早戻し）・►►I（頭出し、早送り））
   エンター（ENTの読み）
4. 表示窓
5. 🗀（グループ）+、−ボタン
6. クリップ
7. ホールド
   HOLDスイッチ
   矢印の方向にずらして黄色いマークを表示させると、リモコンの操作ができなくなります。かばんの中などに入れて持ち歩くとき、ボタンが押されて誤動作するのを防ぎます。
8. ディスプレイ
   DISPLAYボタン
9. プレイモード
   P MODE/⮌（リピート）ボタン
10. サウンド
    SOUNDボタン

リモコンクリップの使いかた

クリップを取り付ける位置によっては、表示窓に出る文字の向きが上下逆転し、読みにくい場合があります。その場合、下記のようにリモコンのクリップを逆向きに付けてください。

はずすには　　**逆向きにつけるには**

表示窓（リモコン）

1　ディスク表示
2　曲番表示部
3　文字情報表示部
4　再生状態表示
5　サウンド表示
6　電池残量表示

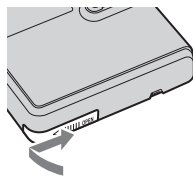
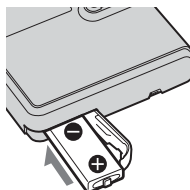
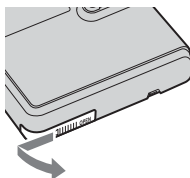
準備する

お買い上げ時には、まず充電式電池を充電してください。

1 充電式電池を入れる

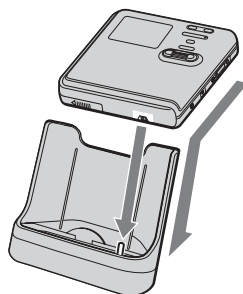
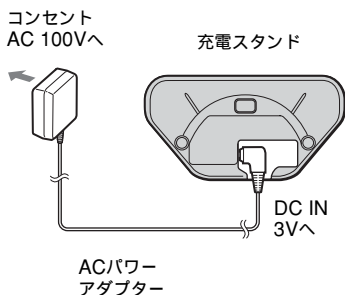
❶ **充電池入れのふたを矢印の方向へ押しながらずらす。**

❷ **充電式電池を入れる。**
⊖端子側を奥にして入れてください。

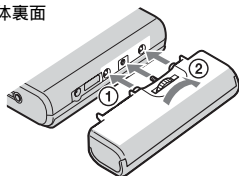
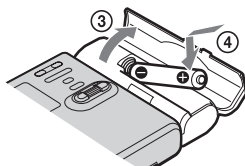
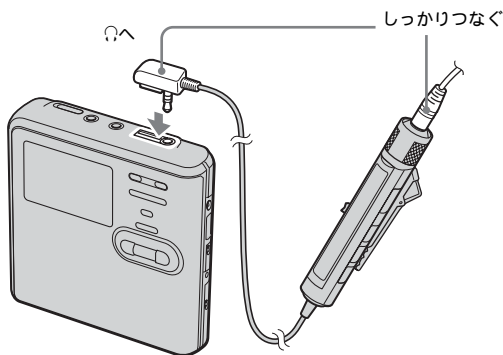
❸ **ふたを閉める。**

2 充電する

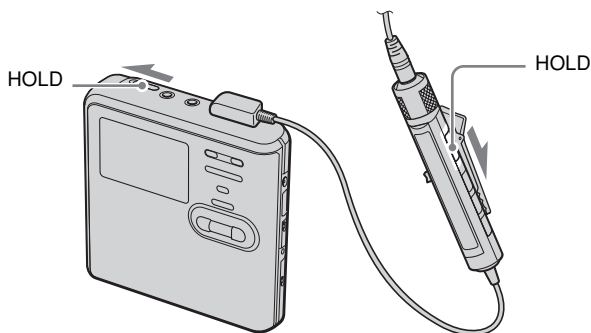
❶ **充電スタンドとACパワーアダプターをつなぎ、コンセントにつなぐ。**

❷ **本体を充電スタンドにのせる。**
「充電中です」と表示され、充電が始まります。
表示が消えた時点でお使い頂けます。

次ページへつづく

- 充電してもすぐに表示が消える場合は充分に充電されています。
- 使い切った状態から充電を始めると、約3.5時間で充電が終了します。
充電時間は充電式電池の使用状態によって異なります。

アルカリ乾電池と一緒に使って長時間使用するときは

1 乾電池ケースを本体に取り付ける。

2 ソニーアルカリ乾電池（単3形）を1本入れる。
図のように必ず⊖側から入れる。

3 本体にリモコンをつなぐ

4 HOLDつまみをずらして、ホールドを解除する

本体とリモコンのHOLDつまみを矢印と反対の方向へずらします。

ACパワーアダプターを直接つないで充電することもできます。
停止中に、本体のDC IN 3VジャックにACパワーアダプターをつなぎ、■・CANCEL/CHGボタンを押します。
このとき、本体のUSB接続用ジャック部のふたが開いていると、ACパワーアダプターがつなげませんのでご注意ください。

ご注意

- 本体が動作しているとき（充電中を除く）は、本体を充電スタンドにのせたり、はずしたりしないでください。
- 本体にACパワーアダプターを直接つないで充電しているときに操作をすると、充電は止まります。
- お買い上げ時や長い間使わなかった場合、充電式電池の持続時間が短いことがあります。これは電池の特性によるもので、何回か充放電を繰り返すと充分に充電されるようになります。
- 録音などで長時間お使いになるときは、家庭用電源（コンセント）でお使いになることをおすすめします。電池をお使いの場合は、充電式電池を充分に充電してお使いください。
- 乾電池でお使いになるときは、必ずアルカリ乾電池を使ってください。それ以外の電池では、電池の持続時間が短くなったり、併用する充電式電池の性能が損なわれる場合があります。

充電時期は

ご使用中、次のように確認することができます。
表示窓の電池残量表示で確認する。

電池残量が少なくなっています。

↓

電池が消耗しています。

↓

残量がありません。本体の表示窓に「電池残量がありません」が点滅し、電源が切れます（リモコンでは「LOW BATT」が点滅します）。

電池残量表示は実際の残量ではなく、あくまでも目安として表示しています。動作状況および環境により増減することがあります。

海外で使うときは

付属のACパワーアダプターは、100～240 Vの電源電圧に対応しています。コンセントの形にあったACプラグアダプターをご用意いただければ、海外でも使用できます。

電池の持続時間[1)]

Hi-MDモードで連続的に録音した場合 (JEITA[2)])

ディスクの種類	使用電池	リニアPCM	Hi-SP	Hi-LP
Hi-MD規格専用1GBディスク	充電式電池[3)]	約5.5時間	約7.5時間	約8.5時間
	アルカリ乾電池[4)]	約2時間	約3時間	約3時間
	充電式電池+アルカリ乾電池	約8時間	約11.5時間	約12.5時間
60/74/80分ディスク	充電式電池	約5時間	約7.5時間	約8.5時間
	アルカリ乾電池	約4時間	約6時間	約6.5時間
	充電式電池+アルカリ乾電池	約9.5時間	約14.5時間	約16.5時間

Hi-MDモードで連続的に再生した場合 (JEITA)

ディスクの種類	使用電池	リニアPCM	Hi-SP	Hi-LP	MP3[5)]
Hi-MD規格専用1GBディスク	充電式電池	約9時間	約12.5時間	約14.5時間	約13時間
	アルカリ乾電池	約9.5時間	約13.5時間	約15.5時間	約14.5時間
	充電式電池+アルカリ乾電池	約20時間	約28.5時間	約33時間	約30時間
60/74/80分ディスク	充電式電池	約7.5時間	約12時間	約15時間	約13.5時間
	アルカリ乾電池	約8時間	約13時間	約16時間	約14.5時間
	充電式電池+アルカリ乾電池	約17時間	約27.5時間	約34時間	約30.5時間

MDモードで連続的に再生した場合 (JEITA)

ディスクの種類	使用電池	SP	LP2	LP4
60/74/80分ディスク	充電式電池	約13.5時間	約15時間	約15.5時間
	アルカリ乾電池	約16時間	約17.5時間	約18.5時間
	充電式電池+アルカリ乾電池	約32時間	約35.5時間	約37時間

[1)] ELライト設定（66ページ）が「オート消灯」に設定されているときの測定値です。
[2)] JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。
[3)] 充電式ニッケル水素電池NH-14WM、100%充電時
[4)] 日本製ソニーアルカリ乾電池LR6(SG)で測定しています。
[5)] 128kbpsで転送した曲の場合

ご注意

- 充電式電池を交換するときは、必ず本機を停止してから行ってください。
- Hi-MD規格専用1GBディスクで録音する場合、短時間の録音を繰り返し行うと、録音持続時間が短くなることがあります。

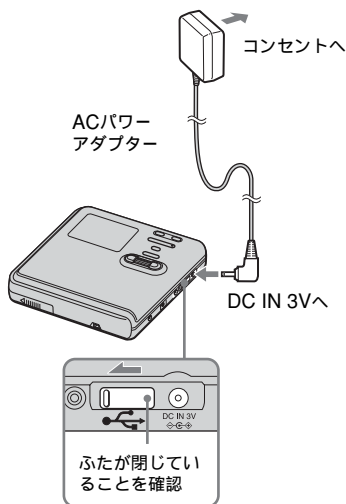
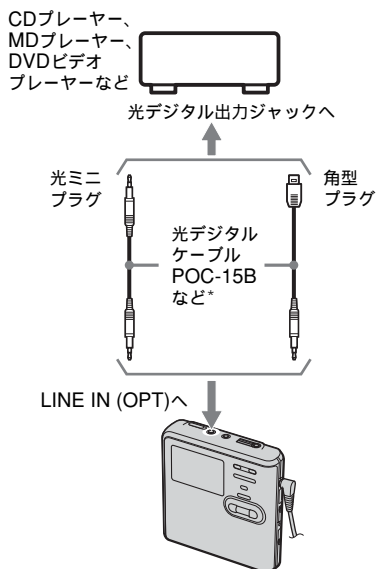
録音する

光デジタルケーブルを使って、CDプレーヤーやBSチューナーなどとつないでデジタル録音する方法を説明します。別売りの光デジタルケーブルをご用意ください。

ご注意

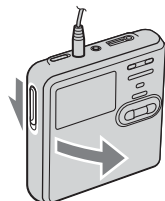
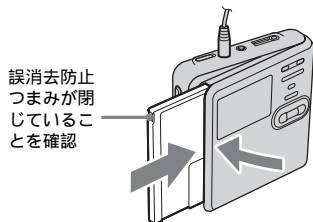
パソコンを使わずに本機で直接録音する場合、MDモードで録音することはできません。Hi-MDモードで録音してください。

1 つなぐ（奥までしっかりと差し込んでください。）

❶ 本体とACパワーアダプターをつなぎ、コンセントにつなぐ。

❷ 光デジタルケーブルをつなぐ。

* 詳しくは「別売りアクセサリー」（79ページ）を参照してください。

次ページへつづく

2 録音用ディスクを入れる

❶ **OPENつまみをずらす。**
ふたが開きます。

❷ **ディスクのラベル面をふた側にして矢印の向きに奥まで押し入れ、ふたを閉める。**

3 動作モードを確認する

本機は「Hi-MDモード」と「MDモード」の2つの動作モードを持っています。動作モードは、挿入されたディスクによって自動的に切り替わります。本体の表示窓で動作モードを確認してください。
本機で録音できるのは「Hi-MDモード」の場合です。「MDモード」では録音できません。Hi-MD対応していない他のMD機器でもディスクをお使いになるなど、「MDモード」で録音したいときは、パソコンに接続し、付属のソフトウェアを使って録音してください（別冊「パソコンから音楽を転送しよう！SonicStage/MD Simple Burner インストール・操作ガイド」参照）。

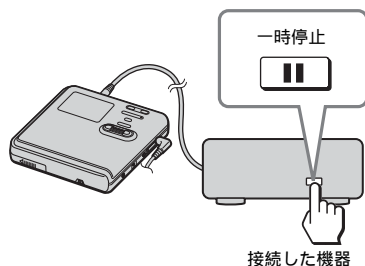
動作モードがHi-MDモードの場合は「Hi-MD」、MDモードの場合は「MD」と表示されます。

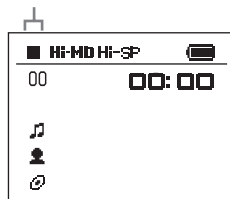
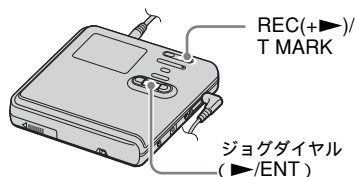
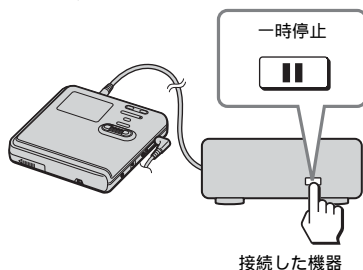
- Hi-MD規格専用1GBディスクを入れた場合は、自動的にHi-MDモードになります。
- 従来の60/74/80分ディスクを入れた場合は、次のようになります。

ディスクの種類	動作モード
ブランクディスク	メニューの「ディスクモード」*の設定に従います。 ➡ 本機で録音するときは「ディスクモード」の設定を「Hi-MD」にして、動作モードをHi-MDモードにしてください。
Hi-MDモードで録音されたものが入っているディスク	Hi-MDモード
MDモードで録音されたものが入っているディスク	MDモード ➡ 本機では録音できません。付属のソフトウェアを使うと「MDモード」で録音できます。

＊ ディスクモードについて詳しくは「ディスクモードを選ぶ」（69ページ）をご覧ください。

4 録音する

❶ 録音したいCDなどを一時停止にする。

❷ 表示窓に■が表示されていることを確認する。

■が表示されていることを確認する。

❸ 停止中にREC(+►)/T MARKを押しながらジョグダイヤルを押す(►/ENT)。
「REC」表示が点灯し、録音が始まります。

❹ CDなどの再生を始める。
すでに録音してあるディスクを入れたときは、前の録音部分の終わりから録音されます
曲番は録音元のCDなどと同じところにつき、録音したものは1つのグループになります。

こんなときは	操作
止める	■を押す。
一時停止する	❚❚ を押す*。 もう一度押すと解除されます。
ディスクを取り出す	■を押してから、本体のOPENつまみをずらしてふたを開ける。(「システムファイルの書込み中です」の表示が消えるまでふたは開きません。)

* 一時停止したところで曲番(トラックマーク)が1つ増え、そこから次の曲として記録されます。

ご注意

- Hi-MD規格専用1GBディスクに録音するときは、ACパワーアダプターをつなぐ、充分に充電した充電式電池を入れる（電池残量表示が の状態）、または新しい乾電池を使って（電池残量表示が の状態）録音してください。Hi-MD規格専用1GBディスクをお使いの場合、停止中や再生中に電池残量表示が充分に残っていても、録音をしようとすると「録音のための電池残量が不充分です」と表示され、録音ができないことがあります。これはHi-MD規格専用1GBディスクが録音時に大きな電力を必要とするため、確実に録音できる電池残量を予測し、録音を保証できない電池残量の場合に録音できないようにするためです。
- 録音は、振動のない安定した場所で行ってください。
- 表示窓に■が表示されていることを確認してから録音を始めてください。■が表示される前に録音を始めると、初めの数秒間が録音されないことがあります。
- 録音中や「データ保存中です」、「システムファイルの書込み中です」（リモコンでは「DATA SAVE」、「SYSTEM WRITE」）の表示中に、本機に衝撃を与えたり、電源を抜いたりすると、それまで録音した内容が記録されません。また、ディスクに入っているデータが壊れることもあります。
- ディスクの空き容量が少ない場合は録音できません。
- 録音中や編集中、また、その後■ボタンを押してから「データ保存中です」、「システムファイルの書込み中です」（リモコンでは「DATA SAVE」、「SYSTEM WRITE」）の表示が消えるまえに電池をはずしたり、ACパワーアダプターを抜いたり、電池が消耗したときは、次に電源を入れるまでふたは開きません。

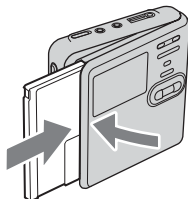
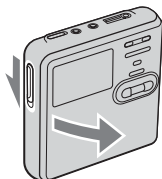
- お買い上げ時は、常に新しいグループを作って録音するように設定されています。グループを作らずに録音したい場合は、グループ録音の設定を「切」に設定してください（41ページ）。
- ディスクの途中に録音したいときは、録音したい位置で一時停止をしてから録音を始めてください。
- 録音中の音を聞くことができます。音量を変えても録音される音の大きさは変わりません。

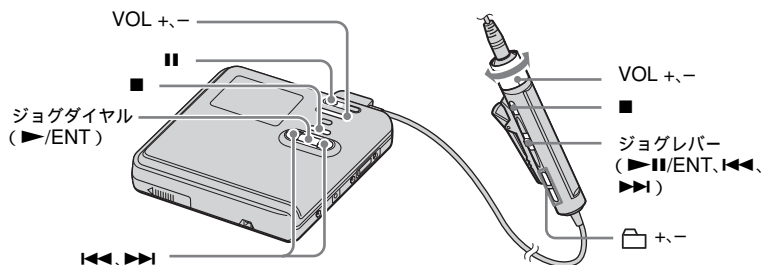
再生する

1 録音済みのディスクを入れる

❶ **OPENつまみをずらす。**
ふたが開きます。

❷ **ディスクのラベル面をふた側にして矢印の向きに奥まで押し入れ、ふたを閉める。**

2 聞く

❶ **ジョグダイヤルを押す（►/ENT）。**
リモコンではジョグレバーを押す（►❚❚/ENT）。

❷ **VOL＋、－を押して、音量を調節する。**
リモコンではVOL ＋、－つまみを回す。
表示窓で音量を確認できます。

止めるには、■を押す。
次に再生するときは、止めたところの続きから始まります。停止してから電池使用時では約10秒後、ACパワーアダプター使用時では約3分後に、自動的に電源が切れます。

こんなときは	本体操作	リモコン操作
止める	■を押す。	■を押す。
一時停止する	❚❚を押す。 もう一度押すと解除されます。	ジョグレバーを押す（►❚❚/ENT）。 もう一度押すと解除されます。
曲番や曲名を直接選ぶ（ダイレクト選曲）	ジョグダイヤルを回して聞きたい曲を表示させ、押す。	—
今聞いている曲、またはさらに前の曲を頭出しする	❙◄◄を押す。またはさらに戻したい曲数だけ❙◄◄を押す。	ジョグレバーを❙◄◄側にずらす。またはさらに戻したい曲数だけ❙◄◄側にずらす。
次の曲を頭出しする	►►❙を押す。	ジョグレバーを►►❙側にずらす。
早戻し／早送りする	❙◄◄または►►❙を押したままにする。	ジョグレバーを❙◄◄または►►❙側にずらしたままにする。
グループの頭出しをする（グループスキップ）[1]	—	🗀＋または－を押す。
ディスクの最初の曲から再生を始める	停止中ジョグダイヤルを2秒以上押したままにする（►/ENT）。	停止中、ジョグレバーを2秒以上押したままにする（►❚❚/ENT）。
ディスクを取り出す	■を押してからOPENつまみをずらしてふたを開ける[2]。	■を押してから本体のOPENつまみをずらしてふたを開ける[2]。

[1] ディスクにグループが1つもない場合またはブックマーク再生の場合は、10曲ごとの頭出しになります。
[2] ふたを開けると、次の再生はディスクの最初から始まります。

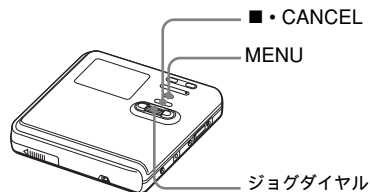
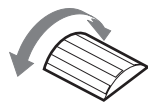
ご注意

次のような場合、音が飛ぶことがあります。

- 強い衝撃が連続的に与えられた場合
- 傷や汚れのあるディスクを聞いている場合

Hi-MDモードでお使いのディスクの場合、最大で約12秒間音が途切れることがあります。

メニュー操作のしかた

本機では、録音や再生、編集に便利な機能をメニューを使って操作します。メニューの操作は下記の手順で行います。
お買い上げ後、はじめてメニュー操作をすると、表示窓に「メニューモード」が表示されます。お使いになる前に、メニューモードを「アドバンスド」（すべての項目を表示）または「シンプル」（基本的な項目のみ表示）に設定して、メニューに表示される項目を選んでください。詳しくは「表示されるメニュー項目を変更する」（65ページ）を参照して、メニューモードを設定してください。

本体で操作するには

1 **MENUを2秒以上押す。**
メニュー画面になります。

2 **ジョグダイヤルを回して、項目を選択する。**

3 **ジョグダイヤルを押して、項目を決定する。**

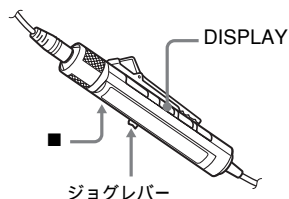
4 **表示にしたがって、手順2と3を繰り返す。**
最後にジョグダイヤルを押した時点で設定が確定します。

1つ前の階層に戻すには

■ • CANCELボタンを押す。

途中で中止するときは

■ • CANCELボタンを2秒以上押す。

リモコンで操作するには

1 **DISPLAYを2秒以上押す。**

メニュー画面になります。

001編集

2 **ジョグレバーをずらして、項目を選択する。**

3 **ジョグレバーを押して、項目を決定する。**

4 **表示にしたがって、手順2と3を繰り返す。**

最後にジョグレバーを押した時点で設定が確定します。

1つ前の階層に戻すには

■ボタンを押す。

途中で中止するときは

■ボタンを2秒以上押す。

メニュー一覧

設定できるメニュー項目は以下のとおりです。項目によって、本体とリモコンの両方で設定できるもの、本体のみまたはリモコンのみで設定できるものがあります。「メニューモード」の設定が「アドバンスド」になっているときは、すべてのメニューが表示されます。「シンプル」になっているときは、∗が付いているメニュー項目は表示されません。詳しくは、「表示されるメニュー項目を変更する」(65ページ) をご覧ください。

ご注意

表示される項目は、操作状況やディスクの設定により異なります。

本体のメニュー

本体では、表示窓に表示される内容を、日本語または英語に設定することができます。詳しくは「表示の言語を選択する」(70ページ) をご覧ください。

第一階層	第二階層	機能	参照ページ
編集／Edit	タイトル入力／Title Input∗	曲名、アーティスト名、アルバム名、ディスク名、グループ名をつける	53
	グループ設定／Group Set∗	グループを設定する	56
	グループ解除／GroupRelease∗	グループを解除する	57
	移動／Move∗	曲やグループの順番を変える	58
	消去／Erase	曲やグループを消す	60
	初期化／Format∗	ディスクをお買い上げ時の状態に戻す (Hi-MDモードの場合のみ)	64
ディスプレイモード／Display	経過時間／Lap Time	表示窓で情報を見る	35、42
	1曲残り時間／1 Remain		
	曲のプロパティ／Tr Property		
	録音残り時間／REC Remain		
	再生残り時間／All Remain		
再生モード／Play Mode	メイン再生モード／MainPlayMode	グループやアーティストなど、再生する曲の単位を選ぶ	44
	サブ再生モード／Sub PlayMode	1曲再生やシャッフル再生など、再生方法を選ぶ	46
	リピート再生／Repeat	繰り返して再生をする	47

第一階層	第二階層	機能	参照ページ
サウンド設定／Sound	通常／Normal	通常の音質で再生する	51
	6バンドイコライザ／Sound EQ	お好みの音質を選択、設定する	51
録音設定／REC Settings	録音モード／REC Mode	録音モードを設定する	38
	録音レベル調整／REC Level＊	録音レベルを手動で設定する	39
	マイクAGC／MIC AGC＊	マイク録音レベルの調整モードを設定する	37
	マイク感度／MIC Sens＊	マイク録音時のマイク感度を設定する	37
	タイムマーク設定／Time Mark＊	録音時、一定時間毎にトラックマークをつける	40
	グループ録音／Group REC＊	グループ録音の設定／解除を行う	41
	シンクロ録音／SYNC REC＊	シンクロ録音をする	42
ファイル一覧／File List	—	Hi-MDモードのディスクに入っている音楽データ以外のデータの一覧を表示する	73
各種設定／Option	メニューモード／Menu Mode	メニューの表示項目を変更する	65
	AVLS／AVLS＊	ヘッドホンからの音漏れを抑える	65
	操作確認音／Beep＊	確認音の設定をする	66
	ELライト設定／EL Light	画面表示の点灯、消灯の設定をする	66
	ディスクメモリー／Disc Memory＊	ディスクの設定を記録する	67
	クイックモード／Quick Mode＊	すばやく再生を始める	68
	ディスクモード／Disc Mode	ディスクモード（Hi-MDまたはMD）を設定する	69
	ジョグダイヤル／Jog Dial＊	表示窓のスクロール方向を変える	70
	表示言語／Language	表示の日本語／英語の設定をする	70

リモコンのメニュー

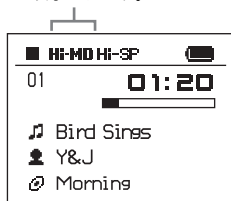
第一階層	第二階層	機能	参照ページ
編集／Edit	グループ設定／Group Set∗	グループを設定する	57
	グループ解除／GroupRelease∗	グループを解除する	58
	消去／Erase	曲やグループを消す	61
	初期化／Format∗	ディスクをお買い上げ時の状態に戻す（Hi-MDモードの場合のみ）	64
メイン再生モード／MainPlayMode	通常再生／Normal Play	グループやアーティストなど、再生する曲の単位を選ぶ	47
	グループ再生／Group Play		
	アーティスト再生／Artist Play		
	アルバム再生／Album Play		
	ブックマーク再生／BookmarkPlay		
各種設定／Option	メニューモード／Menu Mode	メニューの表示項目を変更する	65
	AVLS／AVLS∗	ヘッドホンからの音漏れを抑える	65
	操作確認音／Beep∗	確認音の設定をする	66
	バックライト設定／Backlight	リモコンの表示窓のバックライトの設定をする	67
	ディスクメモリー／Disc Memory∗	ディスクの設定を記録する	68
	クイックモード／Quick Mode∗	すばやく再生を始める	69
	ディスクモード／Disc Mode	ディスクモード（Hi-MDまたはMD）を設定する	69

録音を始める前に

動作モードについて

本機は「Hi-MDモード」と「MDモード」の2つの動作モードを持っています。
動作モードは、挿入されたディスクによって自動的に切り替わります。本体の表示窓で動作モードを確認してください。

本機で録音できるのは「Hi-MDモード」の場合です。「MDモード」では録音できません。Hi-MD対応していない他のMD機器でもディスクをお使いになるなど、「MDモード」で録音したいときは、パソコンに接続し、付属のソフトウェアを使って録音してください（別冊「パソコンから音楽を転送しよう！ SonicStage/MD Simple Burnerインストール・操作ガイド」参照）。

動作モードがHi-MDモードの場合は「Hi-MD」、MDモードの場合は「MD」と表示されます。

ディスクの状態による動作モードの違いについて詳しくは、24ページをご覧ください。

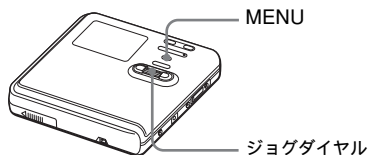
メニューモードを選ぶ

メニューモードが「シンプル」に設定されていると、いくつかのメニュー項目が表示されません。操作中にメニュー項目が見つからない場合は、メニューモードが「アドバンスド」になっているか確認してください。メニューモードについて詳しくは、「表示されるメニュー項目を変更する」（65ページ）をご覧ください。

ご注意

- Hi-MD規格専用1GBディスクに録音するときは、ACパワーアダプターをつなぐ、充分に充電した充電式電池を入れる（電池残量表示が ▮▮▮ の状態）、または新しい乾電池を使って（電池残量表示が ▮▮▮ の状態）録音してください。Hi-MD規格専用1GBディスクをお使いの場合、停止中や再生中に電池残量表示が充分に残っていても、録音をしようとすると「録音のための電池残量が不充分です」と表示され、録音ができないことがあります。これはHi-MD規格専用1GBディスクが録音時に大きな電力を必要とするため、確実に録音できる電池残量を予測し、録音を保証できない電池残量の場合に録音できないようにするためです。
- 録音するときは、必ず専用USBケーブルをはずしてください。本機に専用USBケーブルがつながっていると、録音できない場合があります。
- 表示窓に■が表示されていることを確認してから録音を始めてください。■が表示される前に録音を始めると、初めの数秒間が録音されないことがあります。
- 録音中や「データ保存中です」、「システムファイルの書込み中です」（リモコンでは「DATA SAVE」、「SYSTEM WRITE」）の表示中に、本機に衝撃を与えたり、電源を抜いたりすると、それまで録音した内容が記録されません。また、ディスクに入っているデータが壊れることもあります。

表示窓で情報を見る

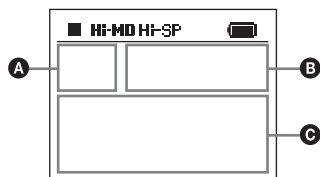
停止中または録音中、表示窓で残り時間や曲番などの情報を確認できます。

1 メニュー操作で「ディスプレイモード」を選ぶ。

2 ジョグダイヤルを回して確認したい情報を選び、押して決定する。

ジョグダイヤルを回すたびに、表示は次のように変わります。

停止中：「経過時間」→「1曲残り時間」→「曲のプロパティ」→「録音残り時間」→「再生残り時間」

録音中：「経過時間」

ジョグダイヤルを押すと、A、B、Cに次のように情報が表示されます。

停止中

経過時間

A： 曲番
グループ番号[1]

B： 経過時間

C： 曲名
アーティスト名（Hi-MD）／
グループ名（MD）
アルバム名（Hi-MD）／
ディスク名（MD）

1曲残り時間

A： 曲番
グループ番号[1]

B： 1曲残り時間

C： 曲名
アーティスト名（Hi-MD）／
グループ名（MD）
アルバム名（Hi-MD）／
ディスク名（MD）

曲のプロパティ

A： 曲番
グループ番号[1]

B： 経過時間

C： 曲名
グループ名
コーデック情報（Hi-MD）[2]／トラックモード情報（MD）と録音日時[3]

録音残り時間

A： 曲番
グループ番号[1]

B： 経過時間

C： ディスク名
録音残り時間とディスクの空き容量
（Hi-MDモードの場合のみ）

再生残り時間

A： 曲番
グループ番号[1]

B： 経過時間

C： ディスク名[4]
再生残り時間と残り曲数

1) メイン再生モードが「グループ再生」になっている場合のみ表示されます。
2) MP3で可変ビットレート（VBR）の曲の場合、表示されるビットレートはSonicStageで表示されるビットレートと一致しないことがあります。
3) 録音日時は、録音日時の情報がある曲の場合のみ表示されます。
4) 選択しているメイン再生モードによって、表示される名前は異なります。

録音中

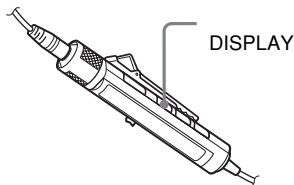
経過時間	
Ⓐ：	曲番 グループ番号[1]
Ⓑ：	経過時間 タイムマーク表示[2]
Ⓒ：	録音の種類と録音残り時間 録音レベルメーター（L・R）

[1] グループ録音している場合のみ表示されます。
[2] タイムマーク設定が働いている場合に表示されます。

ご注意

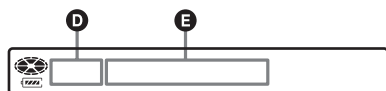
- Hi-MDモードでお使いの場合、録音残り時間が「–00:00」のとき、ディスクの空き容量は「2.0MB」と表示されます。これはシステム上の制約で2.0MBは予備領域の容量です。
- ディスクのグループ設定状態、動作状態、設定状況により、表示が異なることがあります。

再生中の表示については、42ページの「表示窓で情報を見る」をご覧ください。

リモコンで操作する

1 **DISPLAYを押す。**

押すたびに、表示は次のように変わります。

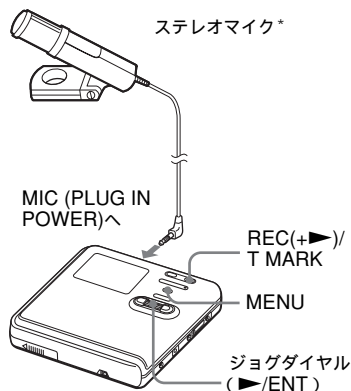
リモコンの表示窓

停止中

Ⓓ	Ⓔ
曲番	曲名と経過時間
曲番	● 録音残り時間とディスクの空き容量（Hi-MD） ● 録音残り時間（MD）
全曲数	メイン再生モードとディスク名*
曲番	曲名
曲番	● アーティスト名（Hi-MD） ● グループ名（MD）
曲番	● アルバム名（Hi-MD） ● ディスク名（MD）

* 選択しているメイン再生モードによって、表示される名前は異なります。

録音中

Ⓓ	Ⓔ
曲番	経過時間
曲番	録音残り時間

マイクで録音する

* 詳しくは「別売りアクセサリー」（79ページ）を参照してください。

1 **別売りのステレオマイクを本体につなぐ。**

2 REC(+►)/T MARK**を押しながらジョグダイヤルを押して(►/ENT)、録音を始める。**

マイク感度を変える

録音する音の大きさに合わせて、マイク感度を変えることができます。

1 **停止中または録音中に、メニュー操作で「録音設定」–「マイク感度」を選ぶ。**

2 **ジョグダイヤルを回して「標準」または「低感度」を選び、押して決定する。**

- 「標準」：会話など、通常の音量のものを録音するとき
- 「低感度」：口述録音などマイクを口元に近づけて録音するときや、ライブなど近くの音や大きな音を録音するとき

マイク録音レベルの調整モードを変える

マイク録音する音源に合わせて、録音レベルの自動調整モードを変えることができます。

1 **停止中または録音中に、メニュー操作で「録音設定」–「マイクAGC」を選ぶ。**

2 **ジョグダイヤルを回して「標準」または「大音量音楽向」を選び、押して決定する。**

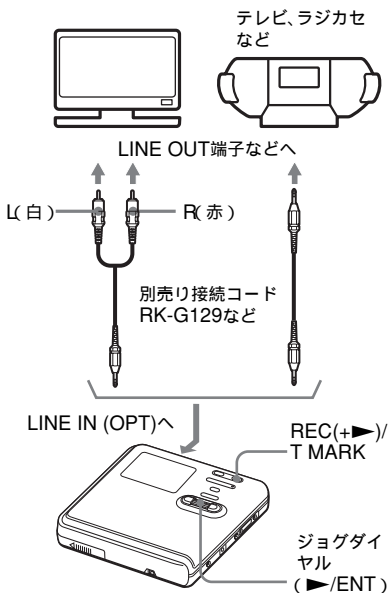
- 「標準」：会話や小音量の音楽など、一般的な音量のものを録音するとき
- 「大音量音楽向」：ライブや楽器練習など、比較的大きな音量のものを録音するとき

- 「マイクAGC」の設定が「大音量音楽向」になっているときは、大きな音での歪みが少なく、また、オリジナルに近い自然な音量変化で録音することができます。
- プラグインパワータイプのマイクをお使いの場合、電源は本体から供給されますので、マイクの電源をOFFにしても使うことができます。

ご注意

- 光デジタル入力、マイク入力、アナログ入力の順に優先して自動的に選択します。光デジタルケーブルがLINE IN (OPT)ジャックにつながっていると、マイク入力になりません。
- 手動で録音レベルを調整して録音をしているときは（39ページ）、「マイクAGC」の設定をすることはできません。
- 本体の動作音が録音されることがあります。そのときは、マイクを本体から遠ざけて録音してください。ダイレクト接続タイプのマイクはノイズを拾うことがあるのでご注意ください。
- モノラルマイクで録音すると、左チャンネルしか録音できません。
- ACパワーアダプターをつないでマイク録音しているときは、ノイズが入ることがありますので、マイクのコードやプラグ部分に触らないでください。
- 小音量の音楽などを録音するときは、録音レベルの設定を「標準」に設定してください。「大音量音楽向」を選んでいると、意図しない大きな音が入ったときに、録音音量が小さくなりすぎてしまうことがあります。

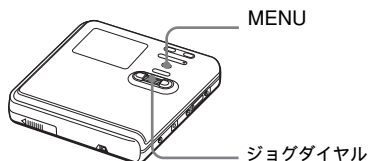
テレビやラジオから録音する（アナログ録音）

カセットテープやラジオ、テレビなどのアナログ音声出力のある機器から録音する場合や、MDから録音する場合の方法です。

1 **接続する。**
録音元の機器に合わせて、別売りの接続コードをお使いください。詳しくは「別売りアクセサリー」（79ページ）、「知っておくと便利です」（97ページ）をご覧ください。

2 REC(+►)/T MARK**を押しながらジョグダイヤルを押して（►/ENT）、録音を始める。**

3 **録音したい音を出す。**

録音モードを変える

録音モードによって録音できる時間が異なります。お好みの録音モードで録音してください。
本機では「Hi-MDモード」でのみ録音することができます。「MDモード」で録音したい場合は、パソコンに接続し、付属のソフトウェアを使って音楽を録音／転送してください（別冊「パソコンから音楽を転送しよう！SonicStage/MD Simple Burner**インストール・操作ガイド」参照）。**

1 **停止中に、メニュー操作で「録音設定」–「録音モード」を選ぶ。**

2 **ジョグダイヤルを回してお好みの録音モードを選び、押して決定する。**
設定した録音モードは、次に変更するときまで記憶されています。

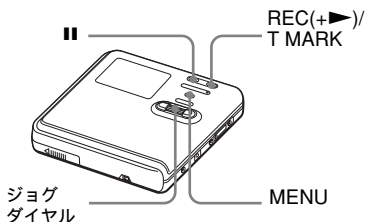
録音モード	表示	録音時間
リニアPCM録音	PCM	• 80分ディスクに約28分 • Hi-MD規格専用1GBディスクに約1時間34分
Hi-SP録音	Hi-SP	• 80分ディスクに約2時間20分 • Hi-MD規格専用1GBディスクに約7時間55分
Hi-LP録音	Hi-LP	• 80分ディスクに約10時間10分 • Hi-MD規格専用1GBディスクに約34時間

Hi-MD AUDIOまたはHi-MDロゴのある機器が「リニアPCM」、「Hi-SP」、「Hi-LP」に対応しています。

ご注意

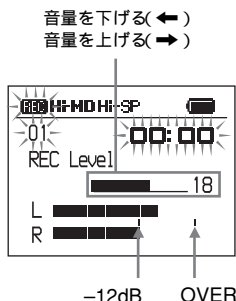
- 長時間録音するときはACパワーアダプターをつないでお使いになることをおすすめします。
- リニアPCMで録音した長時間の曲をディバイドまたはコンバインの編集をするときは、本機を使って編集することをおすすめします。パソコン上で編集する場合、非常に時間がかかることがあります。

手動で録音レベルを調節する

録音は、録音レベルが最適な値になるように自動的に調整されますが、必要に応じて手動で調整できます。アナログ録音のときはもちろん、デジタル録音のときでも調整できます（デジタルRECレベルコントロール）。

1 本体の❚❚を押しながら、REC(+►)/T MARKを押す。
録音一時停止になります。

2 メニュー操作で「録音設定」–「録音レベル調整」–「マニュアル」を選ぶ。

3 録音したい音を出す。

4 表示窓を見ながらジョグダイヤルを回して、録音レベルを調節する。
録音レベルは、レベル表示のバーが「–12dB」付近で点灯するように調整します。大きな音が入ったときに、レベル表示のバーが「OVER」を超えて点灯する場合は、録音レベルを下げてください。

5 ❚❚を押して録音を始める。
他の機器とつないで録音するときは、本機が録音を始めた後で、録音元の音を最初から出し直してください。

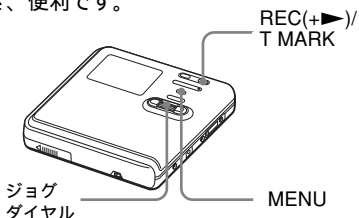
自動調節にするには

手順2で「オート（AGC）」を選ぶ。

ご注意

- 左右の音（チャンネル）のレベルは、別々に調節できません。
- 録音を止めると、次の録音からは自動レベル調節に戻ります。
- シンクロ録音時に手動で調節するときは、まずシンクロ録音の設定が「切」の状態（42ページ）で、上記手順1～4を行い、録音レベルの調整をします。その後、シンクロ録音の設定を「入」にして、録音を始めます。

録音中にトラックマークをつける

曲や録音内容にトラックマーク（曲番）をつけると再生するときに頭出しができ、便利です。

手動でつける

録音中、トラックマークをつけたいところで、REC(+►)/T MARKを押す。

自動でつける

会議や講義など、長い録音をするときに、一定時間ごとにトラックマークを自動的につけて、途中に目印をつけることができます。マイク録音、またはアナログ録音中にのみ設定することができます。

1 録音中または録音一時停止中に、メニュー操作で「録音設定」–「タイムマーク設定」–「入」を選ぶ。

2 ジョグダイヤルを回してお好みの時間を表示させ、押して決定する。
「TIME 01 min」から「TIME 60 min」（1分から60分）までが表示され、1分刻みで設定することができます。

設定を解除するには

手順1で「切」を選ぶ。

録音中のタイムマークのつきかた

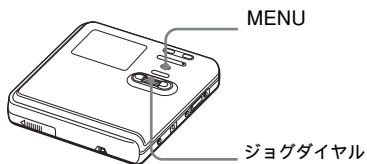
- 録音している時間が「タイムマーク設定」の設定時間を超えていたとき：
  設定をしたところでトラックマークがつき、以後設定時間ごとにトラックマークがつく
  例）録音時間8分、タイムマークの設定時間5分（TIME 05 min）のとき
  実際にトラックマークがつくのは、8分、13分、18分、23分・・・
- 録音している時間が「タイムマーク設定」の設定時間より短いとき：
  タイムマークの設定時間に達したときから設定時間毎にトラックマークがつく
  例）録音時間3分、タイムマークの設定時間5分（TIME 05 min）のとき
  実際にトラックマークがつくのは、5分、10分、15分・・・

タイムマーク設定でトラックマークをつけると、表示窓の時間表示の前に「T MARK」がつきます。

ご注意

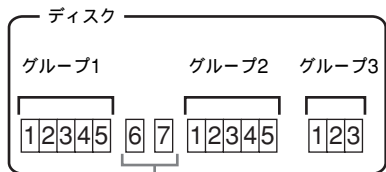
- 録音の途中にREC(+►)/T MARKボタンを押したり、❚❚を押してトラックマークがついてしまったときは、その時点から「タイムマーク設定」で設定した時間ごとにトラックマークがつきます。
- 光デジタルケーブルをつなぐと、設定は解除されます。

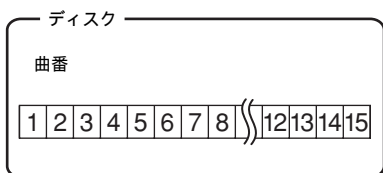
グループを作らずに録音する

本機は、録音するとき常にグループ録音ができるように設定されています（お買い上げ時の設定）。グループを作らずに録音したいときは、次の手順で設定を変更してください。

停止中に、メニュー操作で「録音設定」–「グループ録音」–「切」を選ぶ。

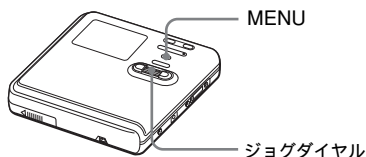
グループとは

複数の曲を1つにまとめる機能です。
例えば、好きな曲だけを集めてグループにすると、再生をするときにそのグループを指定して聞くことができます。
グループ録音したディスクとグループを作らずに録音したディスクは、それぞれ次の図のようになっています。

グループ録音したディスク

グループを作らずに録音したディスク

ディスク
曲番
1 2 3 4 5 6 7 8 12 13 14 15

Hi-MDモードでは最大255個のグループを作ることができます。
グループを作らずに録音した曲を、そのあと編集してグループに設定するときは、「曲やグループを1つのグループにまとめる」（56ページ）をご覧ください。

録音元に合わせて録音を開始／停止する
（シンクロ録音）

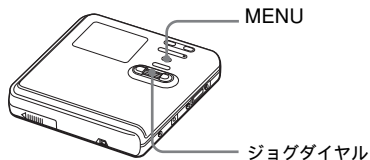
光デジタルケーブルを使ってつないだCDプレーヤーなどの機器からデジタル録音するときに、録音元の音に合わせて録音を始めたり止めたりすることができます。録音元と本機の両方を操作する手間をはぶくことができます。

停止中に、メニュー操作で「録音設定」–「シンクロ録音」–「入」を選ぶ。

シンクロ録音中に録音元で約3秒の無音が続くと、本機は自動的に録音一時停止になります。再び音を検知すると、シンクロ録音に戻ります。録音一時停止状態が5分以上続くと、自動的に録音が止まります。

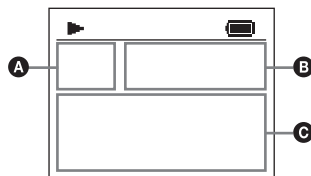
ご注意

- シンクロ録音中は、手動で一時停止、または一時停止を解除することができません。
- 録音中は、シンクロ録音の設定を切り換えないでください。正しく録音されないことがあります。
- シンクロ録音中に録音元で無音（101ページ）状態が続いても、録音元の雑音が原因で、自動的に録音一時停止にならない場合があります。
- CDやMD以外からのシンクロ録音中に、録音元の同一曲内で約2秒の無音（101ページ）が続くと、再び音が出たところで曲番が1つ増えます。

表示窓で情報を見る

再生中に、表示窓で曲名・ディスク名などの情報を確認できます。

1 再生中に、メニュー操作で「ディスプレイモード」を選ぶ。

2 ジョグダイヤルを回して確認したい項目を選び、押して決定する。

ジョグダイヤルを回して表示される項目は次の通りです。
「経過時間」→「1曲残り時間」→「曲のプロパティ」
ジョグダイヤルを押すと、Ⓐ、Ⓑ、Ⓒに次のように情報が表示されます。

経過時間

Ⓐ：曲番
グループ番号[1)]

Ⓑ：経過時間

Ⓒ：曲名
アーティスト名（Hi-MD）／グループ名（MD）
アルバム名（Hi-MD）／ディスク名（MD）

1曲残り時間

Ⓐ： 曲番
グループ番号[1)]

Ⓑ： 再生中の曲の残り時間

Ⓒ： ♫ 曲名
アーティスト名（Hi-MD）／
グループ名（MD）
アルバム名（Hi-MD）／
ディスク名（MD）

曲のプロパティ

Ⓐ： 曲番
グループ番号[1)]

Ⓑ： 経過時間

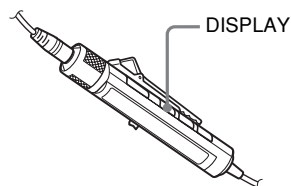
Ⓒ： ♫ 曲名
グループ名
コーデック情報（Hi-MD）[2)]／トラックモード情報（MD）と録音日時[3)]

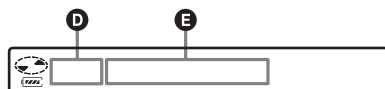
[1)] メイン再生モードが「グループ再生」になっている場合のみ表示されます。
[2)] MP3で可変ビットレート（VBR）の曲の場合、表示されるビットレートはSonicStageで表示されるビットレートと一致しないことがあります。
[3)] 録音日時は、録音日時の情報がある曲の場合のみ表示されます。

ご注意

ディスクのグループ設定状態、動作状態、設定状況により、表示が異なることがあります。

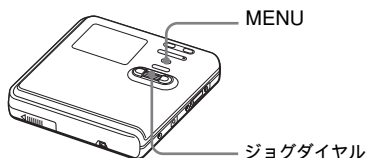
停止中、録音中の表示については、35ページの「表示窓で情報を見る」をご覧ください。

リモコンで操作する

1 再生中に、DISPLAYを繰り返し押す。

押すたびに表示は次のように変わります。

Ⓓ	Ⓔ
曲番	経過時間
曲番	曲名
曲番	• アーティスト名（Hi-MD） • グループ名（MD）
曲番	• アルバム名（Hi-MD） • ディスク名（MD）

再生モードを選ぶ

再生モードを選んでいろいろな方法で曲を聞くことができます。再生モードは、メイン再生モード、サブ再生モード、リピート再生の3つの組み合わせで設定します。

- メイン再生モード：再生したい曲やグループなどの単位を選ぶ。
- サブ再生モード：再生方法を選ぶ。
- リピート再生：リピート再生を設定する。

メイン再生モードを選んで聞く

メイン再生モードで最初に再生する曲を選びます。

1 再生中に、メニュー操作で「再生モード」－「メイン再生モード」を選ぶ。
メイン再生モード選択画面になります。

2 ジョグダイヤルを回してお好みのモードを選び、押して決定する。

表示	再生状態
通常再生	ディスク全曲を再生
グループ再生	お好みのグループの曲のみを再生
アーティスト再生*	お好みのアーティストの曲のみを再生
アルバム再生*	お好みのアルバムの曲のみを再生
ブックマーク再生	ブックマーク（しおり）がついている曲のみを順番に再生

* Hi-MDモードの場合のみ表示されます。

通常のモードで曲を聞く

1 「メイン再生モードを選んで聞く」（左記）の手順1と2を行い、手順2で「通常再生」を選ぶ。

2 ジョグダイヤルを回してお好みのグループを選び、押して決定する。
選んだグループ内の曲の一覧が表示されます。
ディスクにグループが1つもない場合は、この手順は必要ありません。

3 ジョグダイヤルを回してお好みの曲を選び、押して決定する。
選んだ曲の再生が始まります。再生は選んだ曲から順に、ディスクの最後の曲までを再生します。

グループを選んで聞く（グループ再生）

1 「メイン再生モードを選んで聞く」**（44ページ）****の手順1と2を行い、手順2で「グループ再生」を選ぶ。**
グループの一覧が表示されます。

2 ジョグダイヤルを回してお好みのグループを選び、押して決定する。
選んだグループ内の曲の一覧が表示されます。

3 ジョグダイヤルを回してお好みの曲を選び、押して決定する。
選んだ曲の再生が始まります。再生は選んだ曲から順に、グループ内の最後の曲までを再生します。

グループに属していない曲は「Group – –」としてまとめられ、グループの一覧の一番最後に表示されます。

アーティストを選んで曲を聞く（アーティスト再生）（Hi-MDモードの場合のみ）

曲にアーティスト名がついていると、アーティスト名で曲を検索して聞くことができます。

1 「メイン再生モードを選んで聞く」**（44ページ）****の手順1と2を行い、手順2で「アーティスト再生」を選ぶ。**
アーティストの一覧が50音順に表示されます。

2 ジョグダイヤルを回してお好みのアーティスト名を選び、押して決定する。
選んだアーティストの曲の一覧が、録音された順に表示されます。

3 ジョグダイヤルを回してお好みの曲を選び、押して決定する。
選んだ曲の再生が始まります。再生は選んだ曲から順に、曲の一覧の最後の曲までを再生します。

アーティスト名がついていない曲は「👤 __（空欄）」としてまとめられ、アーティストの一覧の一番最後に表示されます。

アルバムを選んで聞く（アルバム再生）（Hi-MDモードの場合のみ）

曲にアルバム名がついていると、アルバム名で曲を検索して聞くことができます。

1 「メイン再生モードを選んで聞く」**（44ページ）****の手順1と2を行い、手順2で「アルバム再生」を選ぶ。**
アルバムの一覧が50音順に表示されます。

2 ジョグダイヤルを回してお好みのアルバム名を選び、押して決定する。
選んだアルバムの曲の一覧が、録音された順に表示されます。

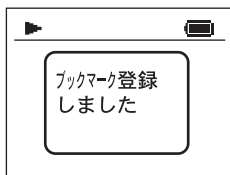
3 ジョグダイヤルを回してお好みの曲を選び、押して決定する。
選んだ曲の再生が始まります。再生は選んだ曲から順に、アルバムの最後の曲までを再生します。

アルバム名がついていない曲は「◎ __（空欄）」としてまとめられ、アルバムの一覧の一番最後に表示されます。

好きな曲だけを選んで聞く（ブックマーク再生）

好きな曲にブックマーク（しおり）をつけていき、その曲だけを再生することができます。ただし、曲順を変えることはできません。

ブックマークをつけるには

1 ブックマークをつけたい曲を再生し、ジョグダイヤルを2秒以上押す。
ブックマークの1曲目が登録されます。

2 手順1を繰り返してブックマークをつけていく。

ブックマークした曲を再生するには

1 「メイン再生モードを選んで聞く」（44ページ）の手順1と2を行い、手順2で「ブックマーク再生」を選ぶ。

2 ジョグダイヤルを回して再生したい曲を選び、押して決定する。
選んだ曲から順に、最後にブックマークされた曲まで再生されます。

ブックマークを消すには

ブックマークを消したい曲を再生し、ジョグダイヤルを2秒以上押す。

サブ再生モードを選ぶ

メイン再生モードで選んだ曲を、いろいろな再生のしかたで聞くことができます。
例えば、メイン再生モードで「グループ再生」を、サブ再生モードで「シャッフル再生」を選ぶと、選んだグループの中の曲を順不同に再生することができます。

1 再生中に、メニュー操作で「再生モード」－「サブ再生モード」を選ぶ。

2 ジョグダイヤルを回してお好みのモードを選び、押して決定する。

表示	再生モード
通常再生	全曲を1回再生
1曲再生	選んだ1曲のみ再生
シャッフル再生	メイン再生モードで選んだ曲を順不同に再生
A-Bリピート再生*	曲の中のA点とB点を繰り返し再生

* メニューモードが「シンプル」に設定されているときは表示されません（65ページ）。

曲中の指定した部分だけを繰り返して再生する（A-Bリピート再生）

A点とB点は、必ず同一曲内に指定してください。

1 繰り返したい部分を含んでいる曲の再生中に、「サブ再生モードを選ぶ」（上記）の手順1と2を行い、手順2で「A-Bリピート再生」を選ぶ。
「A→」が点滅します。

2 **繰り返しを始めたい点（A点）でジョグダイヤルを押す。**
A点が決定し、「B」が点滅します。

3 **繰り返しを終えたい点（B点）でジョグダイヤルを押す。**
B点が決定し、「A→B」と「⊂」が点灯し、A点とB点の間を再生します。

A-Bリピート再生中に▶▶|ボタンを押すと、A点、B点を設定し直すことができます。

ご注意

A点を選んでいる途中でディスクの最後まで再生してしまったときは、A-Bリピート再生の設定が中止されます。

繰り返し聞く（リピート再生）

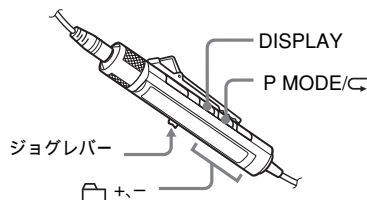
A-Bリピート再生以外の再生モードのとき、曲を繰り返し聞くことができます。

1 **再生中に、メニュー操作で「再生モード」–「リピート再生」を選ぶ。**

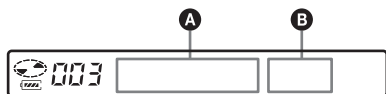
2 **ジョグダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。**
「⊂」が点灯します。

解除するには

手順2で「切」を選ぶ。

リモコンで操作する

メイン再生モードを選んで聞く

1 **メニュー操作で「メイン再生モード」を選ぶ。**

2 **ジョグレバーをずらしてお好みのモードを選び、押して決定する。**
ジョグレバーをずらすとⒶが次のように変わります。
ジョグレバーを押すとⒷが表示されます。

表示Ⓐ/Ⓑ	再生状態
通常再生/（表示なし）	ディスク全曲を再生
グループ再生/	お好みのグループのみを再生
アーティスト再生/ *	お好みのアーティストの曲のみを再生
アルバム再生/ *	お好みのアルバムの曲のみを再生
ブックマーク再生/	ブックマーク（しおり）がついている曲のみを順番に再生

* Hi-MDモードの場合のみ表示されます。

いろいろな再生のしかた

グループを選んで聞く（グループ再生）

1 再生中に、「メイン再生モードを選んで聞く」（47ページ）の手順1と2を行い、手順2で「グループ再生」を選ぶ。

2 ▭ +、−を押してお好みのグループを選ぶ。
選んだグループの最初の曲から最後の曲までを再生します。

アーティストを選んで聞く（アーティスト再生）（Hi-MDモードの場合のみ）

1 再生中に、「メイン再生モードを選んで聞く」（47ページ）の手順1と2を行い、手順2で「アーティスト再生」を選ぶ。

2 ▭ +、−を押してお好みのアーティストを選ぶ。
選んだアーティストの最初に録音された曲から最後に録音された曲までを再生します。

アルバムを選んで聞く（アルバム再生）（Hi-MDモードの場合のみ）

1 再生中に、「メイン再生モードを選んで聞く」（47ページ）の手順1と2を行い、手順2で「アルバム再生」を選ぶ。

2 ▭+、−を押してお好みのアルバムを選ぶ。
選んだアルバムの最初に録音された曲から最後に録音された曲までを再生します。

好きな曲だけを選んで聞く（ブックマーク再生）

ブックマークをつけるには

1 ブックマークを付けたい曲を再生し、ジョグレバーを2秒以上押す。
ブックマークの1曲目が登録されます。

ブックマークがゆっくり点滅

2 手順1を繰り返してブックマークをつけていく。

ブックマークした曲を再生するには

「メイン再生モードを選んで聞く」（47ページ）の手順1と2を行い、手順2で「ブックマーク再生」を選ぶ。

ブックマークを消すには
ブックマークを消したい曲を再生し、ジョグレバーを2秒以上押す。

サブ再生モードを選ぶ

P MODE/⊂を繰り返し押す。
押すたびに表示は次のように変わり、選んだ表示の状態で再生します。

表示	再生状態
—	通常の再生（ディスク全曲を1回再生）
1	1曲再生（今再生している曲のみを再生）
SHUF	シャッフル再生（全曲を順不同に並べかえて再生）
A- (A-B ⊂)*	A-Bリピート再生（曲の中のA点とB点を繰り返し再生）

* メニューモードが「シンプル」に設定されているときは表示されません（65ページ）。

曲中の指定した部分だけを繰り返して再生する（A-Bリピート再生）

1 **繰り返したい部分を含んでいる曲の再生中に、P MODE/⊊を繰り返し押して「A-」を表示させる。**

2 **繰り返しを始めたい点（A点）でジョグレバーを押す。**
A点が決定し、「B」が点滅します。

3 **繰り返しを終えたい点（B点）でジョグレバーを押す。**
B点が決定し、「A-B」と「⊊」が表示され、A点とB点の間を再生します。

A-Bリピート再生中にジョグレバーを▶▶I側にずらすと、A点、B点を設定し直すことができます。

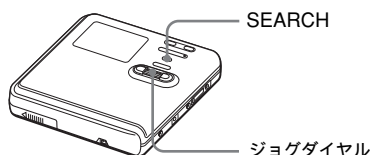
繰り返し聞く（リピート再生）

お好みの再生モードで再生中、P MODE/⊊を2秒以上押す。
⊊ が点灯します。

解除するには

P MODE/⊊を2秒以上押す。

曲を探す

曲名、グループ名、アーティスト名、アルバム名から検索して、お好みの曲を簡単に探すことができます。

1 **SEARCHを押す。**

2 **ジョグダイヤルを回して、曲の検索方法を選び、押して決定する。**

表示	検索方法
曲名検索	曲名から検索する
グループ検索	グループ名から検索する
アーティスト検索*	アーティスト名から検索する
アルバム検索 *	アルバム名から検索する

* Hi-MDモードの場合のみ表示されます。

3 **手順2で「曲名検索」を選んだ場合は手順4へ進む。**
それ以外はジョグダイヤルを回してお好みのグループ、アーティスト、アルバムを選び、押して決定する。
選んだグループ、アーティスト、アルバムの中の曲の一覧が表示されます。

4 **ジョグダイヤルを回して曲を選び、押して決定する。**
選んだ曲の再生が始まります。

頭文字で曲を探す（イニシャル検索）

曲名やグループ名、アーティスト名、アルバム名の頭文字から曲を検索することができます。

1 「曲を探す」（49ページ）の手順1と2を行う。

2 ジョグダイヤルを回して「イニシャル検索」を選び、押して決定する。

曲名検索
A B C D E F G H
I J K L M N O P
Q R S T U V W X
Y Z Num Other

3 ジョグダイヤルを回して検索したい名前の頭文字を選び、押して決定する。

選択できる文字は次のとおりです。

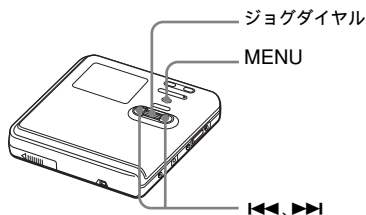
表示	意味
アルファベット（A~Z）	頭文字がアルファベットで始まる名前を検索する。
Num	頭文字が数字で始まる名前を検索する。
Other	アルファベットや数字以外で始まる名前を検索する（日本語を含む）。

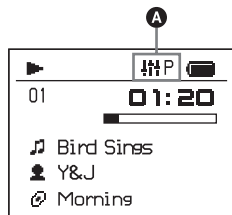
ジョグダイヤルを押すと選んだ頭文字に該当する曲、グループ、アーティスト、またはアルバムの一覧が表示されます。

4 ジョグダイヤルを回して曲を選び、押して決定する。

ご注意

- 手順4のあと、ブックマーク再生は解除されます。
- 手順4のあと、A-Bリピート再生は解除されます。
- イニシャル検索時、日本語の名前は「Other」で検索してください。SonicStage上での検索方法とは異なりますのでご注意ください。
- 曲の検索中、名前がついていない曲は、曲の一覧の一番最後に表示されます。
- 曲の検索中、グループに属していない曲は「Group – –」としてまとめられ、一覧の一番最後に表示されます。
- 曲の検索中、アーティスト名がついていない曲は「 __（空欄）」、アルバム名がついていない曲は「 __（空欄）」のみ表示され、まとめて一覧の一番最後に表示されます。
- 選んだ項目を並べ替えている間は、「並び替え中です」と表示されます。
- 曲の検索中、何も操作をせずに約3分経過すると、検索機能は自動的に解除されます。

好みの音にする（6バンドイコライザ）

1 **再生中、メニュー操作で「サウンド設定」－「6バンドイコライザ」を選ぶ。**

2 **ジョグダイヤルを回してサウンドの種類を選び、押して決定する。**
ジョグダイヤルを押すと、選んだサウンドの種類によって、Ⓐが点灯します。「」は6バンドイコライザの設定がされていることを表します。

サウンドの種類	Ⓐ
ヘビー	H
ポップス	P
ジャズ	J
ユニーク	U
カスタム1*	1
カスタム2*	2

* メニューモードが「シンプル」に設定されているときは、表示されません（65ページ）。

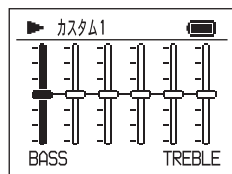
設定を解除するときは

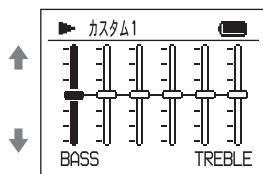
手順1で「通常」を選ぶ。

好みの音質にする

「カスタム1」と「カスタム2」には、お好みの音質を記憶させることができます。

1 **「好みの音にする」の手順1と2を行い、「カスタム1」または「カスタム2」を選ぶ。**

2 **⏮または⏭を押して周波数を選ぶ。**

周波数（100Hz）
周波数は次の6つから選べます。
100Hz、250Hz、630Hz、1.6kHz、4kHz、10kHz

3 **ジョグダイヤルを回してレベルを調節する。**

レベル（+10dB）

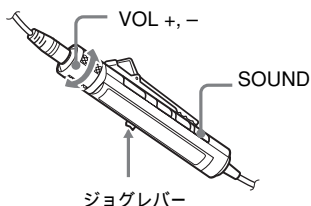
レベルは次の7段階から選べます。
–10dB、–6dB、–3dB、0dB、+3dB、+6dB、+10dB

4 **手順2と3を繰り返す。**

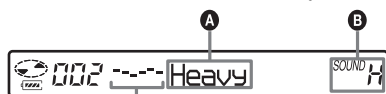
5 **ジョグダイヤルを押して決定する。**

ご注意

録音中は、6バンドイコライザは働きません。

リモコンで操作する

1 再生中、SOUNDを繰り返し押し、「SOUND」を表示させる。

2 SOUNDを2秒以上押す。

3 ジョグレバーを⏮または⏭側にずらしてサウンドの種類を選ぶ。

ジョグレバーをずらすたびにⒶとⒷが次のように変わります。

Ⓐ	Ⓑ
Heavy	*SOUND* H
Pops	*SOUND* P
Jazz	*SOUND* J
Unique	*SOUND* U
Custom1*	*SOUND* 1
Custom2*	*SOUND* 2

* メニューモードが「シンプル」に設定されているときは、表示されません（65ページ）。

4 ジョグレバーを押して決定する。

設定を解除するときは

手順1でⒷに何も表示されていない状態を選ぶ。

好みの音質にする

1 左記の手順1～3を行い、「Custom1」または「Custom2」を表示させる。

2 ジョグレバーを押す。

3 ジョグレバーを⏮または⏭側にずらして周波数を選ぶ。

周波数（100Hz）

周波数は次の6つから選べます。
100Hz、250Hz、630Hz、1.6kHz、4kHz、10kHz

4 VOL +、–つまみを回してレベルを調節する。

レベル（+10dB）

レベルは次の7段階から選べます。
–10dB、–6dB、–3dB、0dB、+3dB、+6dB、+10dB

5 手順3と4を繰り返す。

6 ジョグレバーを押して決定する。

編集する前に

ご注意

- Hi-MD規格専用1GBディスクを編集するときは、ACパワーアダプターをつなぐ、充分に充電した充電式電池を入れる（電池残量表示が ▮ の状態）、または新しい乾電池を使って（電池残量表示が ▮ の状態）編集してください。Hi-MD規格専用1GBディスクをお使いの場合、停止中や再生中に電池残量表示が充分に残っていても、編集をしようとすると「編集のための電池残量が不充分です」と表示され、編集ができないことがあります。これはHi-MD規格専用1GBディスクが編集時に大きな電力を必要とするため、確実に編集できる電池残量を予測し、編集を保証できない電池残量の場合に編集できないようにするためです。
- 誤消去防止つまみを閉めてください（78ページ）。
- 編集中や「システムファイルの書込み中です」の表示中に、衝撃を与えたり電源を抜いたりすると、それまで編集した内容が記録されません。また、ディスクに入っているデータが壊れることもあります。「システムファイルの書込み中です」の表示中は、編集した情報をディスクに記録しています。
- 「システムファイルの書込み中です」の表示中は、ふたは開きません。

名前をつける（タイトル入力）

文字パレットを使って曲名やディスク名をつけたり変えたりすることができます。
本体でのみ操作できます。

入力できる文字の種類

- カタカナ（半角）
- アルファベットA～Zの大文字、小文字
- 数字0～9
- 記号*

* 入力できる記号について詳しくは、「文字パレットについて」をご覧ください。

入力できる文字数

曲名、グループ名、ディスク名にそれぞれ約200文字（全文字種混在の場合）

1枚のディスクに入力できる文字数

- Hi-MDモードの場合：
  約55,000文字
- MDモードの場合：
  約1,700文字

文字数によって登録できるタイトル数は異なります。

文字パレットについて

本体の表示窓に出てくる文字パレットから、文字を選んで入力します。文字パレットの文字配列は次のようになっています。

Hi-MDモード時の文字パレット

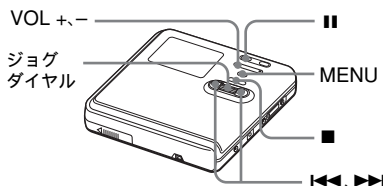
アイウエオカキクケコ
サシスセソタチツテト
ナニヌネノハヒフヘホ
マミムメモヤユヨ゛゜
ラリルレロワヲンー・
ァィゥェォャュョッ
（）｛｝［］「」。、
ABCDEFGHIJ
KLMNOPQRST
UVWXYZ ?!&
abcdefghij
klmnopqrst
uvwxyz”’.,
0123456789
:;%¥$+-*/=
<>^@#`|￣_

MDモード時の文字パレット

アイウエオカキクケコ
サシスセソタチツテト
ナニヌネノハヒフヘホ
マミムメモヤユヨ゛゜
ラリルレロワヲンー
ァィゥェォャュョッ
ABCDEFGHIJ
KLMNOPQRST
UVWXYZ ?!
abcdefghij
klmnopqrst
uvwxyz”’.,
0123456789
:;()&%$+-*
/=<>@#`_

このように表示窓には文字パレットの一部しか表示されないので、ジョグダイヤルなどでカーソルを動かして、文字を選びます。

ご注意

- ディスク名やグループ名に「abc//def」のように「//」を文字の間に入れると、グループ機能が使えなくなる場合がありますのでご注意ください（MDモードの場合のみ）。
- 本体で漢字を表示することはできますが、漢字で名前をつけることはできません。付属のSonicStageソフトウェアを使うと、漢字の入力ができます。
- パソコン機種依存文字（①、㈱など）を表示することはできません。

名前をつける

再生中と停止中に名前をつけることができます。停止中に曲名、アーティスト名、アルバム名をつけるときは、名前をつけたい曲を選んでいる状態で、グループ名をつけるときは名前をつけたいグループの中の曲を選んでいる状態で名前をつけてください。

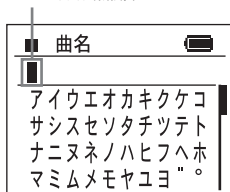
1 メニュー操作で「編集」–「タイトル入力」を選ぶ。

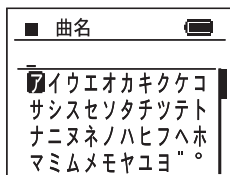
2 ジョグダイヤルを回してつける名前を選び、押して決定する。

つける名前	表示
曲名	曲名
グループ名	グループ名
アーティスト名*	アーティスト名
アルバム名*	アルバム名
ディスク名	ディスク名

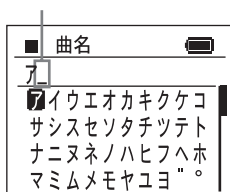
* Hi-MDモードの場合のみ表示されます。

カーソルが入力エリアで点滅し、文字の入力状態になります。

カーソルが点滅する

3 **ジョグダイヤルを下へ回す。**

カーソルが文字パレットに移動します。

4 **文字を選び、ジョグダイヤルを押して決定する。**

文字パレットで選んだ文字が入力エリアに表示され、次の文字位置でカーソルが点滅します。

次の位置で点滅する

文字入力に使うボタンと機能は次の通りです。

機能*	操作
文字カーソルを左右に移動する。	⏮または⏭を押す。
文字パレットでカーソルを上下に動かす。	ジョグダイヤルを回す。
文字を決定する。	ジョグダイヤルを押す（►/ENT）。
カーソルの前に1文字分の空白を入れる。	VOL +を押す。
カーソル上の文字を削除する。	VOL –を押す。
カーソルを文字パレットから入力エリアに移す。	■を押す。
カーソル上の文字に濁点、半濁点をつける。	IIを押す。
カーソル上のアルファベットの大文字／小文字を切り替える。（例：A → a）	IIを押す。
カーソル上のカナ文字を促音に切り替える。	IIを押す。

* ボタンの機能はカーソルが入力エリアにあるときと、文字パレットにあるときで異なることがあります。

5 **手順3、4を繰り返して名前をつける。**

6 **ジョグダイヤルを2秒以上押す。**

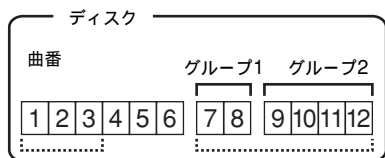
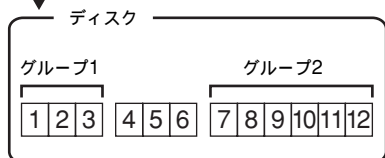
名前を変更するときは

「名前をつける」（54、このページ）の手順で名前を変更する。

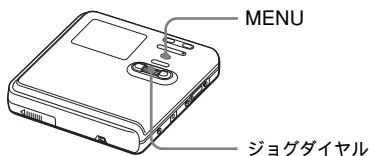
ご注意

- カナ入力したタイトルを、カナ表示に対応していない他のMD機器で表示させると、ローマ字表記になります。その際、先頭と最後に「＾」がつきます（MDモードの場合のみ）。
- 他の機器でつけた200文字以上の曲名やグループ名、ディスク名を、本機で書き換えることはできません（MDモードの場合のみ）。
- 付属のSonicStageソフトウェアなどで入力した漢字の名前を編集することはできません。

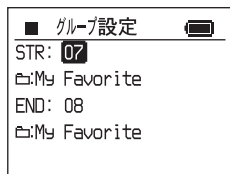
曲やグループを1つのグループにまとめる
（グループ設定）

曲をグループにまとめたり、複数のグループを１つのグループにまとめる、グループに含まれない曲をグループに入れることができます。
Hi-MDモードでは最大255個のグループを、MDモードでは最大99個のグループを作ることができます。

1と3、2と4、3と7、8、4と9〜12など、連続していない曲番やグループなどはまとめることができません。
既存グループの途中の曲を最初の曲、または最後の曲として、新しいグループを作ることはできません。
操作中、曲番はディスク内の通し番号で表示されます。

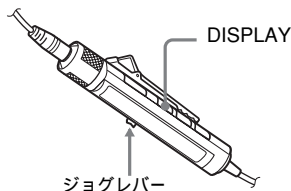
ご注意

- 1枚のディスク内の曲名、グループ名、アーティスト名、アルバム名、ディスク名の合計が本機の最大入力文字数を超えている場合：
  — Hi-MDモードでお使いの場合は、グループ設定はできますが、手順4でグループ名をつけることができません。
  — MDモードでお使いの場合は、グループ設定はできません。
- まとめることができるのは連続している曲またはグループのみです。連続していない曲またはグループをまとめたい場合は、曲順またはグループの順番を並べかえて（58、59ページ）、まとめたい曲やグループを連続させてから行ってください。

1 停止中に、メニュー操作で「編集」–「グループ設定」を選ぶ。

2 ジョグダイヤルを回してグループの先頭にしたい曲の曲番を選び、押して決定する。

まとめたいグループの先頭曲が選ばれます。ディスクにグループがある場合は、グループの先頭の曲の曲番が表示されます。

3 **ジョグダイヤルを回してグループの最後にしたい曲の曲番を選び、押して決定する。**
まとめたいグループの最終曲が選ばれ、グループ名を入力できるようになります。ディスクにグループがある場合は、グループの最後の曲の曲番が表示されます。

4 **グループ名をつける（「名前をつける」(54ページ)）。**

リモコンで操作する

1 **停止中に、メニュー操作で「編集」－「グループ設定」を選ぶ。**

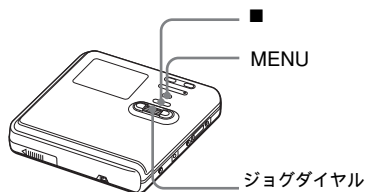
2 **ジョグレバーをずらしてグループの先頭にしたい曲を選び、押して決定する。**

003 STR 01

3 **ジョグダイヤルを回してグループの最後にしたい曲を選び、押して決定する。**

4 **グループ名をつける（「名前をつける」(54ページ)）。**

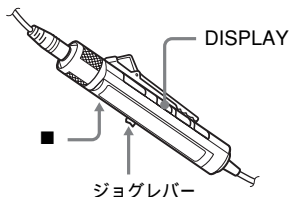
ご注意
- 手順2では、すでにあるグループの先頭曲かグループ設定されていない曲しか選べません。
- 手順3で最後の曲を選ぶときは、手順2で選んだ曲より後の曲しか選ぶことができません。また、まとめたいグループの最後の曲は、すでにあるグループの最後の曲かグループ設定されていない曲しか選べません。

グループを解除する
（グループ解除）

1 **解除したいグループを選び、内容を確認する（45ページ）。**

2 **■を押す。**

3 **メニュー操作で「編集」－「グループ解除」を選ぶ。**

4 **ジョグダイヤルを回して「実行」を選び、押して決定する。**
グループが解除されます。

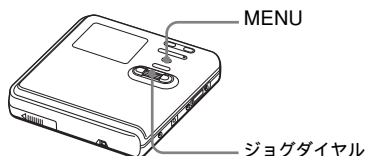
リモコンで操作する

1 解除したいグループを選び、内容を確認する（48ページ）。

2 ■を押す。

3 メニュー操作で「編集」–「グループ解除」を選ぶ。

4 ジョグレバーをずらして「実行」を表示させ、押して決定する。
グループが解除されます。

曲順を変える（ムーブ）

曲やグループを移動して、順番を変更できます。

曲を移動する

曲を別のグループに移動したり、グループの外へ移動することができます。
曲順を変えると、連続した曲番が自動的につきます。

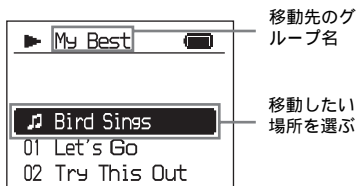
1 移動したい曲の再生中に、メニュー操作で「編集」–「移動」–「曲移動」を選ぶ。
再生中の曲がグループに属している場合はグループ名が、再生中の曲がグループに属していない場合は曲名が、リストの3段目に表示されます。

曲がグループに属している場合

曲がグループに属していない場合、またはディスクにグループがない場合

2 グループの外へ曲を移動したい場合、またはディスクにグループがない場合は、手順3へ進む。
別のグループ内に曲を移動する場合は、ジョグダイヤルを回して移動先のグループを選び、押して決定する。

同じグループ内で曲を移動する場合は、曲が属しているグループ名を選択します。

3 ジョグダイヤルを回して移動したい場所を選び、押して決定する。
曲が移動します。

グループの順番を並べかえる

1 移動したいグループ内の曲を再生中に、メニュー操作で「編集」–「移動」–「グループ移動」を選ぶ。
移動するグループがリストの3段目に表示されます。

2 ジョグダイヤルを回して移動したい場所を選び、押して決定する。
例：「My Best」**というグループを**「Single Collection」**というグループのあとに移動する場合**

ご注意

グループの中の曲を全部移動した場合、そのグループは自動的にディスクから消去されます。

曲やグループを消す
（イレース）

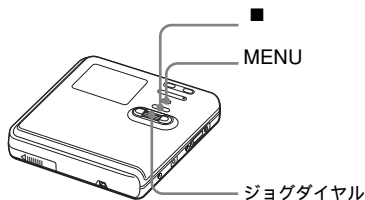
一度消した曲やグループは元に戻すことができません。消す前に、内容をよく確認してください。

パソコンから転送した曲を消すときは

パソコンから転送した曲を本機で消そうとすると、「PC転送・録音 曲を削除してよいですか？」と表示されます。（リモコンでは「PC転送曲」が表示されます。）消した場合、曲の権利は次のようになります。

- Hi-MDモードで転送した曲の場合は、そのディスクを本体に入れ、パソコンに接続すると曲の権利が自動的に復活します。
- MDモードで転送された曲の場合は、曲の権利が1回分失われます。曲の権利を失いたくないときは、曲を消す前にパソコンにつないで曲の権利を戻してください。

ご注意

Hi-MDモードでお使いの場合、音楽データ以外のデータ（テキストデータや画像データなど）は消すことができません。

1曲を消す

1. **消したい曲の再生中に、メニュー操作で「編集」–「消去」–「1曲消去」を選ぶ。**
2. **ジョグダイヤルを回して「実行」を選び、押して決定する。**
   曲が消去され、次の曲の再生になります。消した曲より後の曲番は1つずつくり上がります。

ご注意

グループの中の曲を全部消した場合、そのグループは自動的に消去されます。

曲の一部分を消すには

無音部分など不要な部分だけを消したいときは、不要な部分の始まりと終わりにトラックマークをつけて（62ページ）、その部分を消してください。

グループを消す

1. **削除したいグループを選び、内容を確認する（45ページ）。**
2. **■を押す。**
3. **メニュー操作で「編集」–「消去」–「1グループ消去」を選ぶ。**
4. **ジョグダイヤルを回して「実行」を選び、押して決定する。**
   グループ名とグループ内の全ての曲が消去されます。

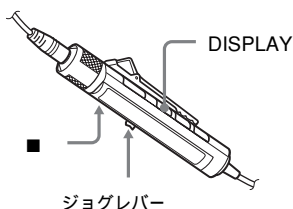
全曲を消す

1 **消したいディスクを再生し、ディスクの内容を確認する。**

2 **■を押す。**

3 **メニュー操作で「編集」–「消去」–「全曲消去」を選ぶ。**
「全ての曲が消去されます」と表示されます。

4 **ジョグダイヤルを回して「実行」を選び、押して決定する。**
「システムファイルの書込み中です」が表示され、全曲が消去されます。消去が終わるとMDモードでお使いのディスクの場合は「ブランクディスクです」が表示されます。
Hi-MDモードでお使いのディスクの場合は、「何も録音されていません」が表示されます。

リモコンで操作する

1曲を消す

1 **消したい曲の再生中に、メニュー操作で「編集」–「消去」–「1曲消去」を選ぶ。**

2 **ジョグレバーをずらして「実行」を表示させ、押して決定する。**

グループを消す

1 **削除したいグループを選び、内容を確認する（48ページ）。**

2 **■を押す。**

3 **メニュー操作で「編集」–「消去」–「1グループ消去」を選ぶ。**

4 **ジョグレバーをずらして「実行」を表示させ、押して決定する。**

全曲を消す

1 **消したいディスクを再生し、ディスクの内容を確認する。**

2 **■を押す。**

3 **メニュー操作で「編集」–「消去」–「全曲消去」を選ぶ。**

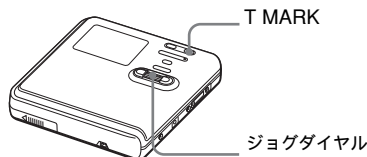
4 **ジョグレバーをずらして「実行」を表示させ、押して決定する。**

曲を分ける（ディバイド）

曲の途中にトラックマーク（曲番）をつけて、そこから後ろを次の曲にすることができます。曲を分ける前に分ける位置を微調整することもできます。曲を分けると曲番は次のようになります。

ご注意

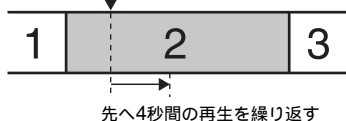
次のような場合は、曲を分けることができません。

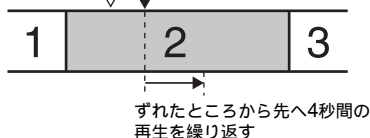
- パソコンから転送した曲の場合
- MD Simple Burnerを使ってHi-MDモードで録音した曲の場合
- 分ける位置が曲の始めと終わりの部分の場合
- 曲を分けた結果、最大曲数（Hi-MDモードでお使いのディスクでは2,047曲、MDモードでお使いのディスクでは254曲）を超えてしまう場合

直接曲を分ける

再生中または再生一時停止中に、マークをつけたい位置でT MARKを押す。

分ける位置を調整してから曲を分ける（ディバイドリハーサル）

1 再生中にT MARKを2秒以上押す。

T MARKが押されたところから、先へ4秒間の再生を繰り返します。

2 ジョグダイヤルを回して、曲を分ける位置を調整する。

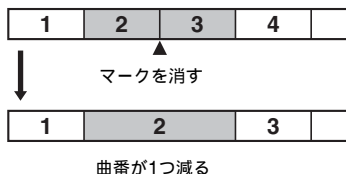
ジョグダイヤルを回すと分ける位置が前後にずれていきます。手順1でT MARKを押した位置から、最大8秒前後に動かすことができます。

3 ジョグダイヤルを押して、決定する。

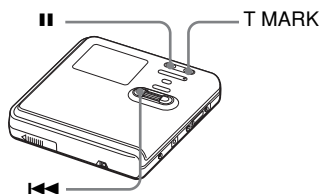
録音中に曲を分けるには

録音（シンクロ録音を除く）中に、マークをつけたい位置でT MARKを押してください。

また、タイムマーク設定を使って、一定時間おきに自動的に曲を分けることもできます（デジタル録音中を除く）（40ページ）。

曲を1つにする（コンバイン）

アナログ入力（LINE IN）やマイク入力で録音したときは、静かな音が続く部分などに不要なトラックマークがついて、曲が分割されてしまうことがあります。その場合は、トラックマークを消すと、前後の曲を1つの曲にまとめることができます。曲番は次のようになります。

ご注意

次のような場合は、曲をつなぐことができません。
- パソコンから転送した曲の場合
- MD Simple Burnerを使ってHi-MDモードで録音した曲の場合
- 異なる録音モードで録音された曲の場合

1 曲番を消したい曲を再生し、IIを押して再生一時停止にする。

2 I◀◀を押して曲の先頭（00:00）にする。

例えば、2曲目と3曲目をつなぎたいときは、3曲目の先頭にします。
「マーク」が表示されます。

3 T MARKを押す。

「トラックマークを消しました」が表示され、指定した曲が前の曲につながります。

曲名や録音日時は、つないだ2曲の1曲目のものになります。

ご注意

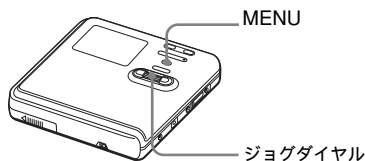
別のグループに属する連続した2つの曲をつなぐと、後ろの曲は前の曲が属するグループに登録されます。また、連続した、グループ登録された曲とされていない曲をつなぐと、後ろの曲は前の曲の設定と同じになります。

ディスクを初期化する（フォーマット）

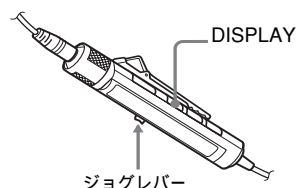
Hi-MDモードでお使いのディスクの場合、初期化（フォーマット）機能を使ってディスクをお買い上げ時と同じ状態に戻すことができます。
この機能はHi-MDモードでお使いのディスクのときのみ使用することができます。

ディスクの種類	初期化後
Hi-MD規格専用1GBディスク	「何も録音されていません」が表示されます。 音楽データ以外のデータも含め、すべてのデータが消去されます。 **ご注意**：曲の権利は、ディスクを本機に入れ、パソコンと接続すると自動的に復活します。
60/74/80分ディスク	「ブランクディスクです」が表示されます。 音楽データ以外のデータも含め、すべてのデータが消去されます。 **ご注意**：転送された曲の権利が1回分失われます。

ご注意

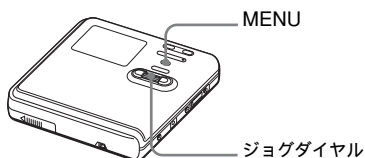
- ディスクを初期化すると、音楽データ以外のデータも消去されます。音楽データ以外のデータが含まれているディスクは、パソコンにつないで内容を確認してください。
- ディスクを初期化すると、パソコンから転送した曲も消え、その曲の転送の権利が1回分消えてしまいます。曲の権利を消したくない場合は、曲をパソコンに転送し、権利を戻してから初期化してください。
- SonicStageソフトウェアで60/74/80分ディスクを初期化した場合、または60/74/80分のブランクディスクの動作モードを選んだ場合でも、そのブランクディスクを本機でお使いになるときの動作モードは、メニューの「ディスクモード」の設定に従います。

1 停止中にメニュー操作で「編集」－「初期化」を選ぶ。
「全てのデータが削除されます」が表示されます。

2 ジョグダイヤルを回して「実行」を表示させ、押して決定する。
「システムファイルの書込み中です」が表示され、初期化されます。
初期化が終わると、Hi-MD規格専用1GBディスクでは「何も録音されていません」が、60/74/80分ディスクでは「ブランクディスクです」が表示されます。

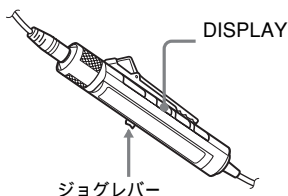
リモコンで操作する

1 停止中にメニュー操作で「編集」－「初期化」を選ぶ。

2 ジョグレバーをずらして「実行」を表示させ、押して決定する。

表示されるメニュー項目を変更する（メニューモード）

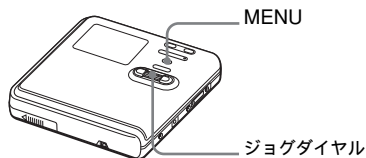
表示されるメニュー項目を全部表示するように設定するか（「アドバンスド」）、基本的な項目のみを表示するか（「シンプル」）、選ぶことができます。
メニュー項目については、「メニュー一覧」（31ページ）を参照してください。

1 メニュー操作で「各種設定」–「メニューモード」を選ぶ。

2 ジョグダイヤルを回して「アドバンスド」または「シンプル」を選び、押して決定する。

リモコンで操作する

1 メニュー操作で「各種設定」–「メニューモード」を選ぶ。

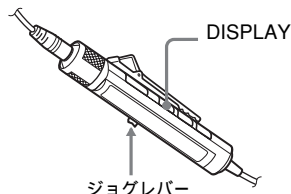
2 ジョグレバーをずらして「アドバンスド」または「シンプル」を選び、押して決定する。

音もれを抑え耳にやさしい音にする（AVLS－オートボリュームリミッターシステム）

音量の上げすぎによる音もれや、耳への圧迫感、周囲の音が聞こえないことへの危険を少なくするために、音量をある一定以上に上げないようにします。

1 メニュー操作で「各種設定」–「AVLS」を選ぶ。

2 ジョグダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。
音量を一定のレベル以上に上げようとすると、「AVLS ON 音量をあげられません」が表示され、それ以上音量が上がらなくなります。

設定を解除するには
手順2で「切」を選ぶ。

リモコンで操作する

1 メニュー操作で「各種設定」–「AVLS」を選ぶ。

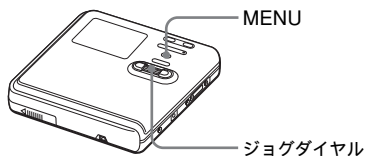
次ページへつづく

2 **ジョグレバーをずらして「AVLS 入」を選び、押して決定する。**

設定を解除するには

手順2で「AVLS 切」を選ぶ。

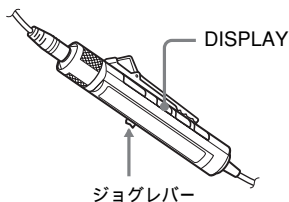
確認音を消す

本体・リモコンの確認音（ピ、ピーなど）を鳴らす／鳴らさないの設定をすることができます。

1 **メニュー操作で「各種設定」－「操作確認音」を選ぶ。**

2 **ジョグダイヤルを回して「切」を選び、押して決定する。**

設定を戻すには

手順2で「入」を選ぶ。

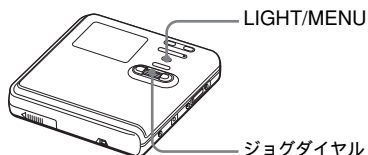
リモコンで操作する

1 **メニュー操作で「各種設定」－「操作確認音」を選ぶ。**

2 **ジョグレバーをずらして「確認音 切」を選び、押して決定する。**

設定を戻すには

手順2で「確認音 入」を選ぶ。

電池の消耗を押さえる （ELライト設定）

電池での操作中、本体の表示窓を自動的に消灯させるか、点灯させておくかを選ぶ機能です。
自動的に消灯させるように設定すると、電池の消耗を押さえることができます。

1 **メニュー操作で「各種設定」－「ELライト設定」を選ぶ。**

2 **ジョグダイヤルを回して「オート消灯」または「常時点灯」を選び、押して決定する。**

表示	機能
オート消灯（お買い上げ時の設定）	何も操作をしない状態で10秒経過すると、画面表示が暗くなります。その後何も操作をせずに5秒経過すると、動作状態表示を除いて全ての表示が自動的に消灯します。
常時点灯	何も操作をしない状態で10秒経過すると、画面表示が暗くなりますが、その後も表示は点灯します。

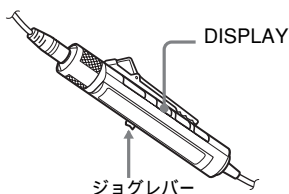
「オート消灯」に設定中、必要なときだけ表示を点灯させるには

LIGHTを押す。
表示が点灯します。

ご注意

- 手順2で「オート消灯」を選んでいても、次の場合は表示は消えません。
  — ACパワーアダプターをつないでいる
  — 充電中
  — パソコンとつないでいる
  — メニュー操作中
  — ダイレクト選曲中
  — 曲の検索中
  — 早戻し／早送り／頭出し中
  — ディバイドリハーサル中
  — メッセージの表示中
  — A-Bリピート再生登録中
- 録音中に電池残量が少なくなると（電池残量表示が ▭ の状態）、電池の消耗を抑えるために画面表示が暗くなります。

表示窓のバックライトをつける／消す

リモコンの表示窓を常に点灯させる／点灯させないの設定をすることができます。

1 **停止中に、メニュー操作で「各種設定」－「バックライト設定」を選ぶ。**

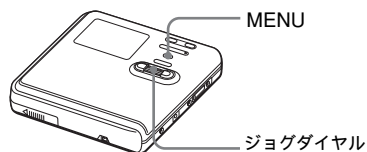
2 **ジョグレバーをずらしてお好みの設定を選び、押して決定する。**

表示	設定
オート	操作中は点灯。何もしないで数秒たつと消灯。
常時点灯	動いているときは常に点灯。
常時消灯	常に消灯。

ディスクごとに設定を記憶する（ディスクメモリー）

本機は、ディスクの設定情報を本体に自動的に登録するように設定されています（お買い上げ時の設定）。この設定にしていると、ディスクを取り出すときに設定情報を自動的に登録し、登録したディスクを再度入れたときに設定情報を自動的に呼び出します。次の設定情報が登録されます。

- ブックマーク
- 6バンドイコライザの「カスタム1」「カスタム2」

この設定は、次の手順で確認することができます。

1 **ディスクを取り出してから、メニュー操作で「各種設定」–「ディスクメモリー」を選ぶ。**

2 **ジョグダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。**

記憶させない設定にするには

手順2で「切」を選ぶ。

登録を消すには

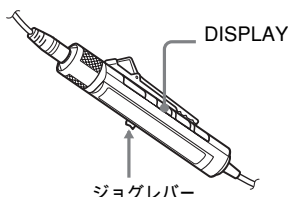
1 **登録から削除したいディスクを入れ、内容を確認する。**

2 **手順2で、「1メモリー消去」を選ぶ。**

ディスクの設定情報は登録から削除されます。

ご注意

- 最大でディスク64枚分を登録することができますが、64枚を越えると再生した時期が古いものから自動的に消去されます。登録できるディスク数は、ディスクに録音されている曲数によって異なります。ディスク1枚あたりの曲数が多くなると、登録できるディスク数は少なくなります。
- ディスクメモリーの登録を行ったことがないディスクで、登録の消去を行うと「メモリーされていないディスクです」と表示されます。

リモコンで操作する

1 ディスクを取り出してから、メニュー操作で「各種設定」–「ディスクメモリー」を選ぶ。

2 ジョグレバーをずらして「ディスクメモリー 入」を選び、押して決定する。

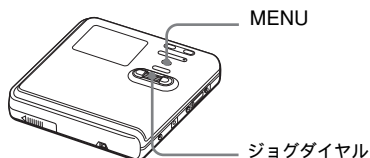
記憶させない設定にするには

手順2で「ディスクメモリー 切」を選ぶ。

登録を消すには

手順2で「1メモリー消去」を選ぶ。

すばやく音を聞く（クイックモード）

本機は、再生ボタンを押したあとに、すばやく再生音を聞くことができるように設定されています（お買い上げ時の設定）。
この設定は次の手順で確認することができます。

1 停止中または再生中に、メニュー操作で「各種設定」–「クイックモード」を選ぶ。

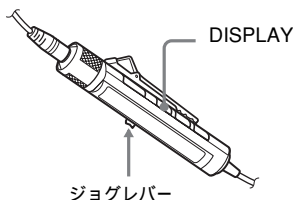
2 ジョグダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。

長い間お使いにならないときは

手順2で「切」を選ぶ。
使用していないときの電池の消耗を抑えることができます。

ご注意

クイックモードが「入」のときは、本機を使用していないときでも本体内部は常に電源が入っている状態になっています。電池残量がなくなると、自動的に本体内部の電源が切れます。

リモコンで操作する

1 **メニュー操作で「各種設定」–「クイックモード」を選ぶ。**

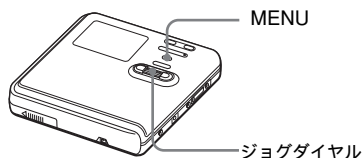
2 **ジョグレバーをずらして「クイックモード 入」を選び、押して決定する。**

長い間お使いにならないときは

手順2で「クイックモード 切」を選ぶ。

ディスクモードを選ぶ

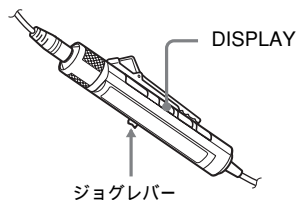
（ディスクモード）

従来の60/74/80分ディスクがブランクディスクのとき、そのディスクをHi-MD形式にするか、MD形式にするかを選ぶ機能です。
パソコンを使わずに本機で録音する場合は「Hi-MD」に設定してください。
「MD」では録音できません。Hi-MDに対応していない他の機器でもディスクをお使いになる場合は、ディスクモードを「MD」に設定し、パソコンを使って録音してください（別冊「パソコンから音楽を転送しよう！SonicStage/MD Simple Burnerインストール・操作ガイド」参照）。

1 **メニュー操作で「各種設定」–「ディスクモード」を選ぶ。**

2 **ジョグダイヤルを回して「Hi-MD」（お買い上げ時の設定）または「MD」を選び、押して決定する。**

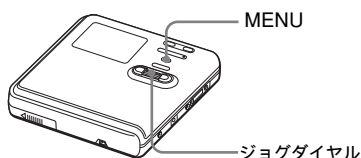
ご注意

- Hi-MD規格専用1GBディスクをお使いのときも、「ディスクモード」の設定で「MD」を選ぶことができますが、お使いになれる動作モードはHi-MDモードのみです。
- SonicStageソフトウェアで60/74/80分ディスクを初期化した場合、または60/74/80分のブランクディスクの動作モードを選んだ場合でも、そのブランクディスクを本機でお使いになるときの動作モードは、「ディスクモード」の設定に従います。

リモコンで操作する

1 **メニュー操作で「各種設定」–「ディスクモード」を選ぶ。**

2 **ジョグレバーをずらして「Hi-MD」または「MD」を表示させ、押して決定する。**

表示窓のスクロール方向を変える

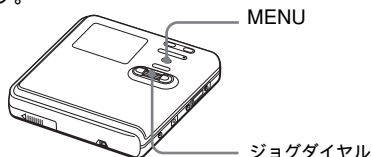
お買い上げ時の設定では、ジョグダイヤルを下方向へ回すと、表示窓の項目が下方向にスクロールしますが、これを上方向にスクロールするように変えることができます。

1 **メニュー操作で「各種設定」–「ジョグダイヤル」を選ぶ。**

2 **ジョグダイヤルを回して「逆方向スクロール」を選び、押して決定する。**

設定を戻すには

手順2で「通常スクロール」を選ぶ。

表示の言語を選択する

本体の表示窓に表示される言語を、日本語または英語に切り換えることができます。

1 **メニュー操作で「各種設定」–「表示言語」を選ぶ。**

2 **ジョグダイヤルを回して「日本語」または「English」を表示させ、押して決定する。**

パソコンとつないでできること

パソコンと接続して使うには、まず付属のCD-ROMを使ってソフトウェアをインストールしてください。インストールのしかたについては、別冊「パソコンから音楽を転送しよう！SonicStage/MD Simple Burnerインストール・操作ガイド」をご覧ください。

付属のソフトウェアを使う

詳しい説明については、別冊「パソコンから音楽を転送しよう！SonicStage/MD Simple Burnerインストール・操作ガイド」またはヘルプをご覧ください。

- **本機とパソコンの間で音楽データを転送する**
  付属のSonicStageソフトウェアを使って、本機とパソコンの間で音楽データをやり取りすることができます。また、Hi-MDモードでお使いのディスクが入っているときは、本機でマイク録音したものや、CDプレーヤーなどから録音したものをパソコンへ転送（移動）することができます。
- **CDから直接MDへ曲を録音する**
  付属のMD Simple Burnerソフトウェアを使って、パソコンのCDドライブに入っているCDを直接、本機のディスクへ録音することができます。

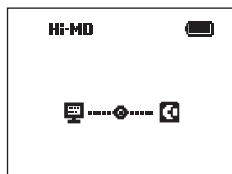
本機内のディスクを記録用媒体として使う

Hi-MDモードでお使いのディスクが入っているときは、パソコンの外部機器として、Windowsのエクスプローラ上で確認することができます。テキストデータや画像データなどをディスクに保存することができます。

ソフトウェア上で曲を再生すると、Hi-MDモードでお使いのディスクが本機に入っている場合はパソコンのスピーカーから、MDモードでお使いのディスクが本機に入っている場合は本体につながっているヘッドホンから、再生音が聞こえます。

本体の充電式電池を充電する

パソコンに接続して本体を充電することができます（USBバスパワー充電）。
本機とパソコンをつなぐと、パソコンのUSBポートから電源が供給され、本体の充電式電池の充電が始まります。ただし、USBバスパワー充電は簡易的に充電するもので、本体の充電式電池を完全に充電することはできません。（例えば、充電式電池を使い切った状態の場合、約6時間でUSBバスパワー充電が終了し、約半分ほど充電されます。充電終了までの時間は、本体の使用状況および周囲の温度によって異なります。）

USBバスパワー充電中は次のように表示されます。

ご注意

表示窓に電池残量表示（▭）が点滅しているときは、USBバスパワー充電はできません。

- 充電式電池を一度取り出し、入れ直してからふたをしっかり閉めてください。
- 充電している場所の温度が低すぎる、または高すぎます。+5℃～+35℃の場所で充電してください。

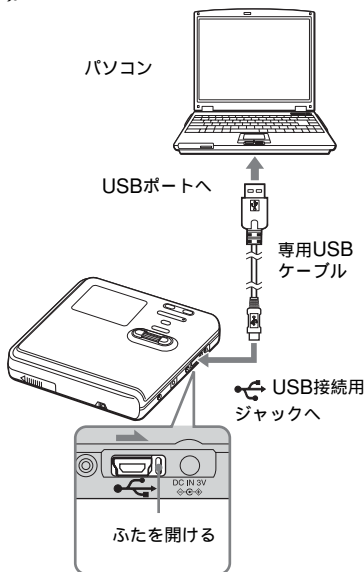
パソコンに接続する

本機とパソコンをつなぐときは、下記の手順で行ってください。

ご注意

Windows ME/98SEをお使いの場合

- 本機のディスクモードが「Hi-MD」に設定されている状態（お買い上げ時の状態）でパソコンに接続し、60/74/80分のブランクディスクを入れると、何も録音／記録しなくてもHi-MD形式のディスクになることがあります。
- 専用USBケーブルを抜いたとき、パソコンに「デバイス取り外しの警告」というメッセージが表示されますが、問題はありません。「OK」をクリックして表示を消してください。

パソコンのUSBポートから電源が供給され、本体の電池を消耗させることなく使うことができます（USBバスパワー接続）。

1 本体に録音用ディスクを入れる。

2 本体が停止していることを確認し、ホールドを解除する。

3 USB接続用ジャック部のふたを開け、本体とパソコンを専用USBケーブルでつなぐ。

4 正しく接続されたことを確認する。

正しく接続されると、本体の表示窓は次のようになります。

専用USBケーブルを抜くときは

必ず下記の手順で行ってください。この手順で行わないと、データが破壊することがあります。

1 表示窓に「REC」が表示されていないことを確認する。

2 本体の■を押す。

表示窓に「ディスクを交換できます」と表示が出ます。

場合によっては、「ディスクを交換できます」が表示されるまでに時間がかかることがあります。

3 専用USBケーブルを抜く。

ディスクを取り出すときは

1 「専用USBケーブルを抜くときは」（上記）の手順1と2を行う。

2 ディスクを取り出す。

ご注意

- パソコンに接続して使うときは、停電や専用USBケーブルが抜けてしまうなど、不慮の事故に備えて充分に充電した充電式電池を入れておくことをおすすめします。不慮の場合の不具合や、音楽データの転送の失敗、音楽データの破壊などについては保証いたしませんのでご注意ください。
- 本体から専用USBケーブルを抜いた後に再び接続するときは、2秒以上経過してから接続してください。
- 振動のない安定した場所でお使いください。
- 本機で録音や再生をしているときは、パソコンと接続しないでください。
- パソコンと接続中に、パソコンでシステムサスペンド、スリープ（スタンバイ状態）、システムハイバネーション（休止状態）のモードへ移行すると、不具合が生じることがあります。自動的に移行する設定は避けてください。
- USBハブを介して、本機とパソコンを接続しないでください。
- パソコンのUSBポートから電源が供給されるので、お使いのパソコンがノートブックタイプなど電池使用の場合は、パソコンの電池を消耗します。パソコンをACパワーアダプターでお使いになることをおすすめします。
- 推奨環境の全てのパソコンについて動作保証するものではありません。

音楽以外のデータをディスクに保存する（データストレージ）

Hi-MDモードでお使いのディスクが入っている状態で本機をパソコンにつなぐと、Windowsで外付けの記憶媒体として認識され、音楽以外のデータ（テキストデータや画像データなど）をディスクに保存することができます。
各ディスクの容量について詳しくは、75ページをご覧ください。

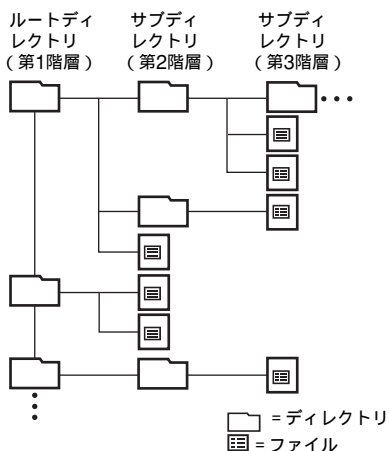
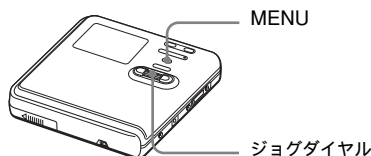
Hi-MDモードでお使いのディスクを本体に入れ、パソコンに接続すると、Windowsのエクスプローラ上で、外部機器として認識されます。他のデバイスと同じようにお使いください。

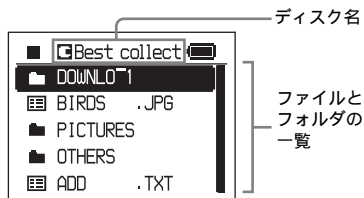
ディスクに保存した音楽以外のデータを、本体の表示窓で確認することができます。詳しくは「ディスクに入っている音楽以外のデータを本体で確認する」（右記）をご覧ください。

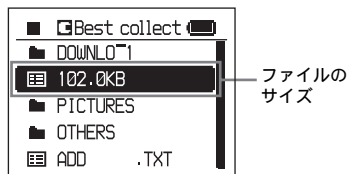
ご注意

- SonicStageソフトウェアが起動しているときは、外部機器として認識されません。
- パソコンでディスクをフォーマット（初期化）するときは、必ずSonicStageソフトウェア上でフォーマットしてください。
- エクスプローラ上で、ファイル管理フォルダ（HMDHIFIフォルダ、HI-MD.INDファイル）を削除しないでください。

ディスクに入っている音楽以外のデータを本体で確認する（ファイル一覧）

Hi-MDモードでお使いのディスクの場合、ディスクに保存している音楽以外のデータを本機で確認することができます。表示窓にファイルの名前とサイズが表示されます。

- ディレクトリは16階層まで表示できます。
- ルートディレクトリは保存された順番に、ファイルとフォルダをあわせて512個まで表示できます。
- サブディレクトリはそれぞれの階層で、ファイルとフォルダをあわせて1,024個まで表示できます。

1 停止中に、メニュー操作で「ファイル一覧」を選ぶ。

ルートディレクトリが保存された順番で表示されます。

2 ジョグダイヤルを回して確認したいファイルを選び、押して決定する。

ファイルのサイズが表示されます。

更にフォルダを展開する場合は、確認したいファイルが入っているフォルダを選び、ジョグダイヤルを押して決定する。選んだフォルダに入っているファイルが表示されますので、その後、手順2を行ってください。

ご注意

- 本機でファイルを開くことはできません。
- 本機で表示できない文字が含まれている場合、文字化けすることがあります。
- 半角9文字以上のファイル名／フォルダ名は短縮されます。
- 再生中、録音中に「ファイル一覧」を選ぶと「設定操作はできません」と表示され、ファイルの一覧は表示されません。

ディスク別ディスク容量（本体／SonicStageソフトウェアで初期化した場合）

ディスクの種類	総容量	ディスク管理容量*	空き容量
60分ディスク	219 MB （229,965,824バイト）	832 KB （851,968バイト）	218 MB （229,113,856バイト）
74分ディスク	270 MB （283,312,128バイト）	832 KB （851,968バイト）	269 MB 282,460,160バイト）
80分ディスク	291 MB （305,856,512バイト）	832 KB （851,968バイト）	290 MB （305,004,544バイト）
Hi-MDディスク	964 MB （1,011,613,696バイト）	832 KB （851,968バイト）	963 MB （1,010,761,728バイト）

* ディスク管理容量とは、ディスク内のファイルを管理している領域の容量です。
* ディスク管理容量は、使用条件などによって容量が変化します。そのため、エクスプローラ上で表示される空き容量に対して、実際に使用できる空き容量が減少することがあります。

使用上のご注意

分解しないでください

ミニディスクレコーダーに使われているレーザーが目にあたると危険です。

レンズに触れないでください

レンズが汚れると音飛びが起きたり、再生できなくなったりする場合があります。
また、ほこりがつかないように、ディスクの出し入れ以外はふたを必ず閉じておいてください。

ACパワーアダプター（付属の充電スタンド専用）について

- この製品には、付属のACパワーアダプター（極性統一形プラグ・JEITA規格）をご使用ください。上記以外の製品を使用すると、故障の原因になることがあります。

極性統一形プラグ

- ACパワーアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- ACパワーアダプターをご使用時は、以下の点にご注意ください。
  — 本機を棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に置かないでください。
  — 火災や感電の危険をさけるために、水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶など、水の入ったものを置かないでください。

日本国内での充電式電池の廃棄について

ニッケル水素電池は、リサイクルできます。不要になったリニッケル水素電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、有限責任中間法人JBRCホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- リモコンやヘッドホンのコードを強く引っぱらないでください。
- 次のような場所には置かないでください。
  — 温度が非常に高いところ（60℃以上）。
  — 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
  — 窓を閉めきった自動車内（特に夏期）。
  — 風呂場など湿気の多いところ。
  — 磁石、スピーカー、テレビなど磁気を帯びたものの近く。
  — ほこりの多いところ。
- 温度が高いところ（40℃以上）や低いところ（0℃以下）では液晶表示が見にくくなったり、表示の変わりかたがゆっくりになることがあります。常温に戻れば元に戻ります。
- キャリングポーチには本体と一緒に硬いものを入れないでください。塗装のはげや傷の原因になります。
- 読み込み中や書き込み中にディスクを抜いたり、専用USBケーブルを抜いたりしないでください。正常に録音されなかったり、録音した音楽データが失われることがあります。
- 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合、正常に録音されなかったり、録音した音楽データが失われることがあります。

温度上昇について

充電中および長時間お使いになったときに、本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。

動作音について

本機は省電力の動作方式になっています。そのため、動作中は断続的に動作音がしますが故障ではありません。

充電について

- 付属の充電スタンドは本機専用です。他機の充電はできません。
- 付属の充電スタンドでは、指定の電池以外は充電しないでください。
- 充電には必ず、付属のACパワーアダプターをお使いください。
- 充電中は、充電スタンドや本体が熱くなりますが、危険はありません。
- お買い上げ時や長い間使わなかった場合、充電式電池の持続時間が短いことがあります。これは電池の特性によるもので、何回か充放電を繰り返すと充分充電されるようになります。
- 充分に充電しても使える時間が通常の半分くらいになったときは、新しい充電式電池と交換してください。
- 長い間お使いにならないときはACパワーアダプターをコンセントから抜き、本体を充電スタンドからはずしてください。

ディスクの取り扱いについて

- ミニディスク自体はカートリッジに収納され、ゴミや指紋を気にせず手軽に扱えるようになっています。ただし、カートリッジのよごれや反りなどが誤動作の原因になることもあります。いつまでも美しい音で楽しめるように次のことにご注意ください。

— **シャッターを手で開けない**
無理に開けるとこわれます。

— **持ち運ぶときや保管するときはケースに入れる**

— **置き場所について**
直射日光があたるところなど温度の高いところや湿度の高いところには置かないでください。また、砂浜など、ディスクに砂が入る可能性があるところには放置しないでください。

— **定期的にお手入れを**
カートリッジ表面についたほこりやゴミを、乾いた布でふきとってください。

- ディスクに付属のラベルは所定以外の位置に貼らないでください。必ず、ラベル用のくぼみに合わせてしっかり貼ってください。

ヘッドホンについて

- 付属のヘッドホンをご使用中、肌に合わないと感じたときは早めに使用を中止して医師またはお客様ご相談センターに相談してください。
- 付属のヘッドホンは、音量を上げすぎると音が外にもれます。音量を上げすぎてまわりの人に迷惑にならないように気をつけましょう。
雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときはいつも呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

リモコンについて

付属のリモコンは本機専用です。また、他機種に付属のリモコンで、本機の操作はできません。

乾電池ケースについて

付属の乾電池ケースは本機専用です。

お手入れについて

表面が汚れたときは

水気を少し含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面をいためますので使わないでください。

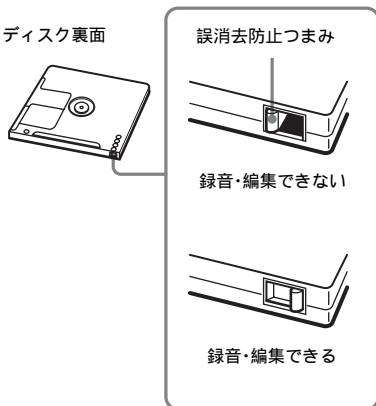
ヘッドホンおよびリモコンのプラグのお手入れ

プラグが汚れていると雑音や音切れの原因になることがあります。常によい音でお聞きいただくために、プラグをときどき柔らかい布でからぶきし、清潔に保ってください。

端子のお手入れについて

定期的に各端子を綿棒ややわらかい布などできれいにしてください。

誤消去防止つまみについて

録音したものを誤って消さないために、誤消去防止つまみをずらして穴が開いた状態にします。つまみをずらして穴が開いた状態にすると、録音・編集ができません。録音・編集するときはつまみを閉めます。

万一故障した場合は、内部を開けずに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。（ディスクが本体に入っているときに故障した場合は、故障原因の早期解決のため、ディスクを入れたままご相談されることをおすすめします。）

主な仕様

形式

ミニディスクデジタルオーディオシステム

フォーマット

ミニディスクシステム、Hi-MDシステム

録音方式

磁界変調光学方式

再生読み取り方式

非接触光学読み取り(半導体レーザー使用)

レーザー

GaAlAsMQWダイオード、
λ=790nm

録音再生時間

「1枚のディスクに録音できる時間は？」
(99ページ) 参照

回転数

約350 rpm～3,000 rpm(CLV)

エラー訂正方式

Hi-MD：
LDC (Long Distance Code)／
BIS (Burst Indicator Subcode)
MD：
ACIRC (Advanced Cross Interleave Reed Solomon Code)

サンプリング周波数

44.1kHz

サンプリングレートコンバーター

光（デジタル）入力：32 kHz/
44.1 kHz/48 kHz

対応オーディオフォーマット

録音：
リニアPCM（44.1 kHz/16 ビット）
ATRAC3plus (Adaptive TRansform Acoustic Coding 3 plus)（Hi-SP、Hi-LP）
再生：
リニアPCM
ATRAC3plus
ATRAC3
ATRAC
MP3（MPEG-1 Audio Layer-3/サンプリング周波数44.1 kHz/ビットレート32-320 kbps（固定／可変ビットレート)）

変調方式

Hi-MD：
1-7RLL (Run Length Limited)/ PRML (Partial Response Maximum Likelihood)

MD:
EFM (Eight to Fourteen Modulation)

周波数特性（光デジタル・アナログ入力時）

20〜20,000 Hz±3 dB

入力端子[1]

MIC：ステレオミニジャック（最小入力レベル 0.13 mV）
LINE IN：アナログ時　ステレオミニジャック（最小入力レベル 49 mV）
光デジタル時　光ミニジャック

出力端子

🎧：ステレオミニジャック（専用リモコンジャック）

実用最大出力（DC時）

ヘッドホン：5 mW + 5 mW（16 Ω）

電源

充電式ニッケル水素電池NH-14WM、1.2 V、1,350 mAh　Ni-MH　1個
アルカリ乾電池（単3形）　1個
ACパワーアダプター DC 3V、AC 100 - 240 V, 50/60 Hz

動作温度

＋5℃〜+35℃

電池持続時間[2]

「電池の持続時間」（22ページ）参照

本体寸法

約80.2 × 84.1 × 18.9 mm
（幅/高さ/奥行き、突起部含まず）

最大外形寸法[2]

約81.9 × 84.8 × 22.1 mm
（幅/高さ/奥行き）

質量

約120g（本体のみ）
約147g（充電式電池含む）

[1] 入力（光デジタル）と入力（アナログ）は兼用ジャック
[2] JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

本機は、ドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に基づく許諾製品です。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

製造年は、ふたを開けた内側に表示されています。

別売りアクセサリー

光デジタルケーブル
光角形プラグ⟷光ミニプラグ
POC-15AB
光ミニプラグ⟷光ミニプラグ
POC-15B
接続コード（アナログ）
ステレオミニプラグ⟷ピンプラグ（×2) RK-G129
ステレオミニプラグ⟷ステレオミニプラグ RK-G136
ステレオマイクロホン ECM-MS907、ECM-MS957
ステレオヘッドホン* MDR-EX51SP、MDR-EX71SL、MDR-E931SP
アクティブスピーカー SRS-Z510/Z30など
ミニディスク（生ディスク）ESシリーズ
Hi-MD規格専用1GBディスク HMD1G
ニッケル水素充電池 NH-14WM

* ヘッドホンは、ステレオミニプラグのものをお求めください。マイクロプラグのものは使えません。

下記の機種は、本機ではお使いいただけません。
ロータリーコマンダー RM-WMC1
MDラベルプリンター MZP-1
ICメモリー・リピートラーニング・MDコントローラー RPT-M1

故障かな？と思ったら

本機をご使用中にトラブルが発生した場合は、サービス窓口にご相談になる前に、もう一度下記の流れにしたがってチェックしてみてください。（メッセージ一覧（88ページ）もあわせてご覧ください。）メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

手順1　本書で調べる

この「故障かな？と思ったら」をチェックし、該当する項目を調べる。
また、本書の手順の中や「メッセージ一覧」にも、様々な情報があります。該当する項目を調べてください。

↓

手順2　「パーソナルオーディオ・カスタマーサポート」のホームページで調べる

http://www.sony.co.jp/support-pa/ で調べる。
最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答を掲載しています。

↓

手順3　それでもトラブルが解決しないときは

お客様ご相談センター（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。

充電について

症状	原因	対策
充電ができない、または充分に充電ができない。	充電式電池が正しく入れられていない。またはACパワーアダプターが正しくつながっていない。	充電式電池を正しく入れ直す、またはACパワーアダプターを正しくつないでください。
	お買い上げ時や長い間使わなかった場合は、電池の特性により持続時間が短いことがある。	何回か充放電を繰り返すと、充分に充電されるようになります。
	充電している場所の温度が低すぎる、または高すぎる（「+5℃～+35℃内で充電してください」が表示される）。	充電は+5℃～+35℃の場所で行ってください。
	パソコンにつないでUSBバスパワー充電をした。	USBバスパワー充電は簡易的に充電するもので、充電式電池を充分に充電するものではありません。ACパワーアダプターを使って充電してください。
使っていなかったのに充電式電池が消耗してしまった。	クイックモードの設定が「入」になっている（68ページ）。	クイックモードの設定が「入」のときは、本機を使用していないときでも、本体内部は常に電源が入っている状態になっています。そのため、電池の持続時間が短くなります。充電が充分ではない状態でかつ、設定が「入」になっていると、使わない間に充電式電池が消耗しまうことがあります。そのときは、もう一度充電してください。
充分に充電しても使える時間が通常の半分程しかできない。	電池の寿命かもしれません。	新しい充電式電池と交換してください。
充電中に本体や充電スタンドが熱くなる。	故障ではありません。	—

録音中

症状	原因	対策
「録音のための電池残量が不充分です」と表示され、録音ができない。	Hi-MD規格専用1GBディスクをお使いの場合、停止中や再生中に電池残量表示が充分に残っていても録音ができないことがあります。これはHi-MD規格専用1GBディスクが録音時に大きな電力を必要とするため、確実に録音できる電池残量を予測し、録音を保証できない電池残量の場合に録音できないようにするためです。	ACパワーアダプターをつなぐ、充電式電池を充分に充電する、または新しい乾電池を使って録音してください。

症状	原因	対策
ディスクの空き容量が2.0MBあるのに、録音残り時間が「–00:00」と表示され、録音できない。	システム上の制約です。2.0MBは予備領域の容量です。	—
録音をすると必ずグループができる。	「グループ録音」の設定が、常にグループになるように（「入」）設定されている。	「グループ録音」の設定を「切」にしてください（41ページ）。
曲のはじめの数秒が録音されない。	表示窓に■が表示される前に録音を始めると、曲のはじめの数秒が録音されないことがあります。	■が表示されるのを確認してから、録音を始めてください。
録音できない。	MDモードで録音しようとした。	パソコンを使わずに本機で直接録音できるのは、Hi-MDモードの場合のみです。MDモードで録音したい場合は、パソコンに接続し、付属のソフトウェアを使って録音してください（24、34ページ）。
	音源と正しくつながれていない。	つなぎなおしてください（23、38ページ）。
	ポータブルCDプレーヤーからデジタル出力が出ていない。	ポータブルCDプレーヤーを家庭用電源につなぎ、音飛びガード機能（ESPなど）を「切」にしてください。
	抵抗入りの接続コードを使っている（アナログ入力録音時）。	抵抗が入っていない接続コードを使ってください（38ページ）。
	録音レベルが小さすぎる（手動調節時）。	録音レベルを調節してください（39ページ）。
	パソコンと接続されている。	パソコンとの接続をはずしてください。
	録音中に電源が抜かれた、または停電になった。	それまでの録音の内容は消えています。初めから録音しなおしてください。
	ディスクの残り時間が48秒以下の場合、録音できないことがあります（「ディスク容量が一杯です」が表示される）。	他の録音用ディスクと取りかえてください。
録音終了後、ふたが開かない。	録音終了後は「システムファイルの書込み中です」の表示が消えるまで、ふたは開きません。	—
最大録音可能時間に達していなくても、「曲数制限を超えています」表示が出て録音が開始できない。	システム上の制約です。Hi-MDモードでお使いのディスクでは2,047曲録音されるとそれ以上の録音はできません（101ページ）。	さらに曲を追加するには、不要な曲を消して録音してください。

症状	原因	対策
曲を消しても、ディスクの録音できる残り時間が増えない。	システム上の制約です（MDモードの場合のみ）。短い曲の場合、何曲か消しても録音できる残り時間が増えないことがあります（102ページ）。	—
ディスクに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間（60分、74分、80分）に一致しない。	システム上の制約です（MDモードの場合のみ）。録音は、何秒かの単位でされるため、短い曲をたくさん録音すると、いわゆる「無駄な」録音部分が増えて、合計時間とあわなくなります（102ページ）。	—
曲数も録音時間も余裕があるのに、「曲数制限を超えています」表示が出て録音が止まる。	システム上の制約です。同じディスクで録音、消去をくりかえしたためと思われます（101ページ）。	さらに曲を追加するには、不要な曲を消して録音してください。

再生中

症状	原因	対策
通常の再生ができない。	リピート再生を指定している。	リピート再生の設定を「切」にして、（リピート）表示を消してから再生を始めてください（47ページ）。
	再生モードを変えた。	メイン再生モード（44ページ）やサブ再生モード（46ページ）を、通常の再生に戻してから再生を始めてください。
ディスクの1曲目から再生しない。	前回再生したときディスクの途中で止めた。	一度停止させ、本体ではジョグダイヤル（►/ENT）を、リモコンではジョグレバー（►II/ENT）を2秒以上押したままにしてください。
再生中に音がとぎれる。	振動の多い場所に置いている。	振動の少ない場所で使ってください。
	1曲の録音時間が極端に短い。	短いトラック（曲）を作らないでください（101ページ）。
瞬間的な雑音が聞こえる。	LP4録音した曲では、圧縮方式の特性上、録音元の音源によっては、ごくまれに瞬間的な雑音が発生する。	—
雑音が多い。	テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いている。	テレビなどから離して置いてください。

症状	原因	対策
録音したディスクを再生すると、音が小さい。	アナログで録音した。（デジタル録音の場合は、自動的に録音元と同じレベルで録音されます。）または、抵抗の入っている接続コードを使って録音した。	正しい接続コードを使ってください（79ページ）。
	録音レベルが小さかった。	録音レベルを手動で調節して録音してください（39ページ）。
音が大きくならない。	AVLSが働いている	AVLSの設定を解除してください（65ページ）。
ヘッドホンから音が出ない。	リモコン付きヘッドホンがしっかり差し込まれていない。	🎧ジャックにしっかり差し込んでください。 リモコン本体にヘッドホンプラグをしっかり差し込んでください。
	プラグが汚れている。	ヘッドホンとリモコンのプラグ部分を乾いた布などで拭いてください。
他の機器でディスクが再生できない。	Hi-MDに対応していない機器で再生しようとした。	Hi-MDモードで録音したディスクはHi-MD対応の機器でのみ再生することができます。
編集した曲を再生しながら早送り、早戻しすると、音がとぎれる。	システム上の制約です。再生しながら早送り、早戻しするときは通常より高速で再生するため、音がとぎれることがあります（101ページ）。	—
ラジカセやアンプなどを使って録音したものを再生をする、またはラジカセやアンプなどをつないで再生をすると、片方の音が出ない。	ラジカセやアンプなどにモノラルのコードを使って接続すると、片方（Rチャンネル）の音が出ません。	必ずステレオのコードを使ってください。接続先の機器がモノラル仕様の場合は、ステレオのコードを使っても片方（Rチャンネル）の音は出ません。
MP3の曲が再生できない。	本機で対応していないMP3の曲を再生しようとした。	本機で再生できるMP3の曲は、SonicStageを使って転送したMPEG-1 Audio Layer-3/サンプリング周波数44.1 kHzの曲のみです。
再生中、本体の表示窓に「R」が表示されている。	再生中に編集した内容の書き込み予約を意味している。	再生を停止すると、編集した内容がディスクに書き込まれ、「R」が消えます。

編集中

症状	原因	対策
「編集のための電池残量が不充分です」と表示され、録音ができない。	Hi-MD規格専用1GBディスクをお使いの場合、停止中や再生中に電池残量表示が充分に残っていても編集ができないことがあります。これはHi-MD規格専用1GBディスクが編集時に大きな電力を必要とするため、確実に編集できる電池残量を予測し、編集を保証できない電池残量の場合に編集できないようにするためです。	ACパワーアダプターをつなぐ、充電式電池を充分に充電する、または新しい乾電池を使って編集してください。
編集終了後、ふたが開かない。	編集終了後は「システムファイルの書込み中です」の表示が消えるまで、ふたは開きません。	—
本機で編集できない。	編集中に電源が抜かれた、または停電になった。	それまでの編集内容は消えています。やり直してください。
音楽データ以外のデータが消去できない。	音楽データ以外のデータはイレース機能を使っても消去できません。	コンピュータに接続して、内容を確認してください。もし、消去してもよい場合は、フォーマット機能を使ってディスクを初期化し直してください。
曲をつなぐことができない。	システム上の制約です（MDモードの場合のみ）。つなごうとする曲のデータが短い場合、その曲のトラックマーク（曲番）を消して前の曲とつなぐことはできない場合があります。また、異なる録音モードで録音された曲の間のトラックマークは消すことができません（101ページ）。	—
他機種で編集ができない。	Hi-MDやMDLP録音モードに対応していない機器で編集しようとした。	本機、または他のHi-MDまたはMDLPモードに対応している機器で編集してください。

グループ機能中

症状	原因	対策
グループ機能が働かない。	グループがないディスクが入っている。	グループがあるディスクを入れてください。
新しいグループを設定できない。	システム上の制約です（MDモードの場合のみ）。入力した文字数の合計が約1,700文字を超えた場合、グループ設定しようとしてもできません（102ページ）。	—

パソコンとの接続中

症状	原因	対策
本機がパソコンに認識されない。	専用USBケーブルがきちんと接続されていない。	専用USBケーブルをきちんと接続してください。
	USBハブを使用している。	パソコンのUSB端子に直接接続してください。
	通信に失敗している。	専用USBケーブルを抜き、2秒以上経過してからもう一度接続してください。それでも認識されない場合は、接続をはずし、パソコンを再起動させてから接続し直してください。
	Windows 2000 Professionalをお使いの場合、本機と接続したままでパソコンの電源を入れたり再起動して、その後専用USBケーブルを抜くと、次に接続した際に、本機がパソコンに認識されないことがあります。	パソコンの電源を入れる、または再起動するときは、本機と接続している専用USBケーブルを抜いてから行ってください。 専用USBケーブルを抜き、パソコンを再起動させてから本機を接続してください。 Windows Updateを行って、Windowsを最新にすると、問題が解消されることがあります。
USBバスパワー充電ができない（ が点滅している）。	電池ふたが閉まっていない。	充電式電池を一度取り出し、入れ直してからきちんとふたを閉める。
	充電している場所の温度が低すぎる、または高すぎる。	+5℃～+35℃の場所で充電してください。
充電が充分にできない。	USBバスパワー充電では、本体の充電式電池を充分に充電することはできません。	パソコンとの接続をはずし、ACパワーアダプターを使って充電してください。
正常に動作しない。	USBハブを使用している。	パソコンのUSB端子に直接接続してください。
	振動のある場所で使っている。	振動のない、安定した場所で使ってください。
音楽以外のデータを保存できない。	SonicStageまたはMD Simple Burnerソフトウェアが起動している。	SonicStageまたはMD Simple Burnerソフトウェアを終了してから操作してください。
パソコンから転送した曲の演奏時間がパソコン上の演奏時間と一致しない。	本体とパソコンの計算誤差です。	—
ディスクの録音可能時間いっぱいに音楽データを転送できない。（例：80分ディスクに対してLP2ステレオ録音で160分転送できない。）	システム上の制約です。録音は、何秒かの単位でされるため、短い曲をたくさん録音すると、いわゆる「無駄な」録音部分が増えて、合計時間と合わなくなります（101ページ）。	—

症状	原因	対策
パソコンで表示されるディスクの容量と、ディスクに表示されている容量に差がある。	ディスク容量は、パソコン上では2進法で表現されますが、ディスクなどの記録媒体では10進法で表現されるため、差が生じます。ディスク容量について詳しくは75ページをご覧ください。	—
本体の操作ができない（表示窓に「…」が表示される）。	パソコンと接続しているときは、本体を操作することができません。	—
ふたが開かない。	本体に充電式電池が入っていない状態、または充電式電池が消耗している状態で、パソコンからの転送／録音／編集中に専用USBケーブルを外した。	専用USBケーブルをつなぐ、または充分に充電した充電式電池を入れ、■を押してください。

その他

症状	原因	対策
本体の表示窓に「シンプル／アドバンスド」と表示されている（リモコンの表示窓に「アドバンスド」と表示されている）。	お買い上げ後、はじめてメニュー操作をしようとした（本体のMENUボタンまたはリモコンのDISPLAYボタンを2秒以上押した）。	メニューモードを設定してください（65ページ）。
表示されないメニュー項目がある。	メニューモードが「シンプル」になっている。	メニューモードを「アドバンスド」に設定して、すべてのメニュー項目を表示させてください（65ページ）。
操作を受けつけない、または正しく動作しない。	充電式電池を充電していない。	充電してください。
	音量が小さくなっている。	音量を上げる。
	ディスクが入っていない。	録音済みのディスクを入れてください。
	ホールド機能が働いている（本体の操作ボタンを押すと「HOLDがかかっています」表示が出る）。	HOLDスイッチを矢印と逆の方向にしてホールド機能を解除してください（15、17、21ページ）。
	ふたがしっかりと閉まっていない。	カチッと音がするまでふたを閉めてください。
	結露している（本機を寒い屋外から暖かい室内に持ち込んだ直後などに、内部に水滴が付着している）。	ディスクを取り出して、そのまま数時間おいてください。
	ACパワーアダプターがしっかり差し込まれていない。	DC IN 3Vジャックとコンセントにしっかり差し込んでください。
	電池が消耗している（「電池残量がありません」が表示される、または何も表示されない）。	充電する（19ページ）。またはACパワーアダプターをつないでください。

症状	原因	対策
操作を受けつけない、または正しく動作しない。	損傷しているディスク、または録音や編集の内容などの情報が正しく入力されていないディスクが入っている。	ディスクを入れなおしたり、録音しなおしてください。それでもエラー表示が出るときは、他のディスクと取りかえてください。
	内部システムが誤動作している。使用中、衝撃や過大な静電気、落雷による電源電圧の異常などのために強いノイズを受けている。	次の手順で操作しなおしてください **1** すべての電源をはずし、専用USBケーブルも抜く。 **2** 約30秒間そのままにする。 **3** 電源をつなぐ。
本体の表示窓が点灯しない。	ELライト設定が「オート消灯」になっている状態で、リモコンで操作している（66ページ）。	本体で操作してください。ELライト設定が「オート消灯」になっているときは、本体の表示窓が自動的に消灯します。リモコンで操作をしても点灯しません。
ファイル一覧で表示されるファイル名やフォルダ名がパソコンで保存した名前と違う。	本機では、表示できない文字数のファイル名やフォルダ名は短い名前に短縮されて表示されます。	—
ファイル一覧で表示されるファイル名やフォルダ名が文字化けする。	本機で表示できない文字が使われている。	—
60/74/80分ディスクがSonicStageソフトウェアで初期化した、または選択した動作モードになっていない。	60/74/80分のブランクディスクを本機でお使いになる場合、動作モードはメニューの「ディスクモード」の設定に従います。	メニューの「ディスクモード」で希望の動作モードに設定してください（69ページ）。

メッセージ一覧

本体の表示窓にメッセージが出たら、下の表にしたがってチェックしてみてください。

表示（日本語）	表示（英語）	意味	対策
エラーです	ERROR	内部システムが誤動作している。	上記の表中の手順1～3を行ってください。
温度上昇し過ぎたため録音停止しました	TEMP OVER REC STOP	録音中、本機の温度が高くなりすぎたため、録音を停止した。	涼しいところで本機をしばらく休ませてから使う。
曲が選択されていません	NO TRACK IS SELECTED	停止中、曲を選んでいない状態で「曲移動」、「1曲消去」を選んだ、または曲名をつけようとした。	編集したい曲を選んだ状態で、もう一度操作してください。
曲検索中です	SEARCH	曲の検索中にリモコンキーのどれかを押した。	本体で操作してください。

表示（日本語）	表示（英語）	意味	対策
曲数制限を超えています	TRACK FULL	曲番の合計が、Hi-MDモードでお使いのディスクで2,047を超える曲数を録音しようとした。	曲番を削除して2,047以下にしてください。
グループがありません	NO GROUP	グループがないディスクで、グループを消去しようとした（60ページ）。 グループがないディスクでグループを解除しようとした（57ページ）。	グループがあるディスクを入れてください。
グループ数制限を超えています	GROUP FULL	Hi-MDモードでお使いのディスクで256個、MDモードでお使いのディスクで100個めのグループを作ろうとした。	グループはHi-MDモードでお使いのディスクでは255個、MDモードでお使いのディスクでは99個まで作れます。255個または99個以内でグループを作ってください。
グループ設定されていない曲です	NON GROUPED TRACK	停止中や再生中、グループに入っていない曲を選んだ状態で、「グループ移動」、「1グループ消去」を選んだ、またはグループ名をつけようとした。	編集したいグループ内の曲を選んだ状態で、もう一度操作してください。
これ以降の曲はありません	END	再生中または▶▶Iを押しているとき（ジョグレバーを▶▶I側へずらしているとき）に、ディスクの最後まで到達した。	—
これ以降のフォルダは展開できません	FOLDER NO EXPAND	ファイル一覧で16階層めのフォルダを選択した。	ファイル一覧で表示できるのは16階層までです。
再生専用ディスクです	P/B ONLY DISC	再生専用ディスクに録音・編集しようとした。	録音用ディスクと取り換えてください。
再生できないトラックです	CANNOT PLAY	再生制限がかかっている曲を再生しようとした	—
		本機で対応していないMP3の曲を再生しようとした。	本機で再生できるMP3の曲は、SonicStageを使って転送したMPEG-1 Audio Layer-3/サンプリング周波数44.1kHzの曲のみです。
サウンド設定中です	SOUND	リモコンでサウンド設定をしているときに、本体キーのどれかを押した。	リモコンで操作してください。
充電中です	Charging	充電中に表示される（19ページ）。	—
システムファイルの書込み中です	SYSTEM FILE WRITING	録音した情報（曲の開始・終了位置など）をディスクに記録している（96ページ）。	しばらく待ってください（衝撃を与えたり、電源を抜いたりしない）。

表示（日本語）	表示（英語）	意味	対策
しばらくお待ちください	BUSY WAIT A MOMENT	ディスクの情報を読んでいる。録音または編集の内容の処理をしている。	しばらく待ってください。まれに1分ほどかかる場合があります。
使用できないディスクです	FORMAT ERROR DISC	本機が対応していないフォーマットのディスクが挿入された。	MDまたはHi-MDフォーマットのディスクを入れてください。
		パソコンでフォーマットされたディスクが挿入された。	パソコンでフォーマットするときは必ずSonicStageソフトウェアを使ってフォーマットしてください。
設定操作はできません	CANNOT SET	シンクロ録音中にタイムマーク設定をしようとした（40ページ）。	—
		録音一時停止中ではないときに「録音レベル調整」の設定をしようとした（39ページ）。	「録音レベル調整」の設定は録音一時停止中に行ってください。
		録音中に次の操作をしようとした。 ● 録音モードの設定をしようとした（38ページ）。 ● ディスクメモリーの設定をしようとした（67ページ）。 ● 再生モードの設定をしようとした（44ページ）。 ● メニューの「グループ録音」を選んだ（41ページ）。	—
操作できません	CANNOT OPERATE	シンクロ録音中に❚❚ボタンまたはT MARKボタンを押した。	—
ディスクが誤消去防止状態です	PROTECTED DISC	ディスクが誤消去防止状態になっている（78ページ）。	誤消去防止つまみを戻してください。
ディスクが入っていません	NO DISC	ディスクが入っていない。	ディスクを入れてください。
ディスク容量がいっぱいです	DISC FULL	ディスクの残り時間が48秒以下の場合、録音できないことがある（録音時）。	他の録音用ディスクと取り換えてください。
ディスクを交換できます	EJECT DISC OK	パソコンとの通信が終了したため、ディスクを取り出したり専用USBケーブルをはずしても安全です。	—
デジタル録音はできません	NO DIGITAL COPY	シリアルコピーマネージメントシステム（SCMS）によりダビングは禁止されている。	アナログ入力（LINE IN）を使って録音してください（38ページ）。

表示（日本語）	表示（英語）	意味	対策
データ保存中です	DATA SAVE	録音や編集した内容をディスクに書き込んでいる。	しばらく待ってください（衝撃を与えたり、電源を抜いたりしない）。
電池残量がありません	LOW BATTERY	電池が消耗した。	充電池を充電し直してください（19ページ）。
何も録音されていません	NO TRACK	何も録音されていないディスクを再生しようとした。	録音済みのディスクを入れてください。
入力信号がありません	NO INPUT SIGNAL	デジタル入力信号が途切れた。	光デジタル入力の接続を確かめてください。アナログ入力（LINE IN）するときは無視してください。
ファイルはありません	NO FILE	ファイル一覧でファイルが入っていないフォルダを選択した。	ファイルが入っているフォルダを選択してください。
ブックマークされている曲がありません	NO BOOKMARKED TRACK	ブックマークがついていないディスクでブックマーク再生をしようとした。	ブックマークをつけてから（46ページ）操作してください。ブックマークがついているディスクで操作してください。
ブランクディスクです	BLANKDISC	何も録音されていないディスクが入っている。	—
編集操作はできません	CANNOT EDIT	録音中に、メニューの「グループ設定」、「グループ解除」、「移動」、「消去」を選んだ。 トラックマークの上にトラックマークを上書きしようとした（62ページ）。 録音モードの異なる曲を１つにつなげようとした（63ページ）。	—
		本機で編集できない文字が含まれている名前を変更しようとした。	本機で入力できない文字が含まれている名前は、変更できません。
編集のための電池残量が不充分です	NOT ENOUGH POWER TO EDIT	Hi-MD規格専用1GBディスクを編集するのに充分な電池残量が残っていない。	ACパワーアダプターをつなぐ、充電式電池を充分に充電する、または新しい乾電池を使って編集してください。
メニューに入っています	IN MENU	本体でメニューの選択中にリモコンキーのどれかを押した。	本体で操作してください。
		リモコンでメニューの選択中に本体キーのどれかを押した。	リモコンで操作してください。
メモリーオーバーです	MEMORY OVER	振動のあるところで録音を始めた。	振動のないところで録音してください。
メモリーされていないディスクです	NO DISC MEMORY	ディスクメモリーを登録していないディスクでディスクメモリーを削除しようとした。	—

表示（日本語）	表示（英語）	意味	対策
文字数制限を超えています	TITLE FULL	曲名やグループ名、ディスク名を200文字を越えて入力しようとした。曲名、グループ名、アーティスト名、アルバム名、ディスク名を、合計約55,000文字（Hi-MDモードの場合）または約1700文字（MDモードの場合）を越えて入力しようとした。	ディスク名、グループ名、アーティスト名、アルバム名、曲名を短くして入力してください（53ページ）。
読み込みエラーです	READ ERROR	ディスクの情報を正しく読み取れなかった。	ディスクを入れ直してください。
録音エラーです	REC ERROR	正しく録音できなかった。	振動のない場所に本機を設置し、録音をやり直してください。
		ディスクにひどい汚れ（油膜、指のあとなど）や傷がある、またはディスクが規格外である。	ディスクを交換して録音をやり直してください。
録音操作はできません	CANNOT RECORD	MDモードのディスクに録音しようとした。	本機ではMDモードで録音されたディスクに追加録音することはできません。（パソコンを使って付属のソフトウェアで録音することはできます。）
録音・再生ができないディスクです	CANNOT RECORD OR PLAY	再生できる音楽データが入っていない。 音楽データまたは管理ファイルが壊れている。	ディスク内の全曲を消す（60ページ）か、ディスクをフォーマットし直してください（64ページ）。
録音のための電池残量が不充分です	NOT ENOUGH POWER TO REC	Hi-MD規格専用1GBディスクを録音するのに充分な電池残量が残っていない。	ACパワーアダプターをつなぐ、充電式電池を充分に充電する、または新しい乾電池を使って録音してください。
AVLS ON 音量をあげられません	AVLS NO VOLUME OPERATION	AVLSの設定が「入」になっているので、これ以上音量をあげられない（65ページ）。	AVLSの設定を「切」にしてください。
DC-INの電圧が高過ぎます	DC IN TOO HIGH	電源電圧が高い（指定のACパワーアダプターを使っていない）。	指定のACパワーアダプターを使ってください。
DOWNLOAD READY	DOWNLOAD READY	MD Simple Burnerのシンプルモードで CDを録音する準備ができている（別冊「パソコンから音楽を転送しよう！」参照）。	—
ERROR XX	ERROR XX	内部システムが誤動作している。	88ページの表中の手順1～3を行ってください。それでもエラーメッセージが表示される場合は、お客様ご相談センターへご相談ください。

表示（日本語）	表示（英語）	意味	対策
HOLDがかかっています	HOLD	ホールド機能が働いている。	本体のHOLDスイッチを矢印と逆の方向にしてホールド機能を解除してください（15、17、21ページ）。
PC転送・録音した曲に挿入できません	TRK FROM PC NO REC	パソコンから転送した曲で、プロテクトがかかっている曲の間に挿入録音しようとした。 MD Simple Burnerを使ってHi-MDモードで録音した曲の間に挿入録音しようとした。	パソコンから転送した曲で、プロテクトがかかっている場合や、MD Simple Burnerを使ってHi-MDモードで録音した曲の間に挿入録音することができません。
PC転送・録音した曲は編集できません	TRK FROM PC NO EDIT	パソコンから転送した曲を、分けたりつなげたりしようとした。 MD Simple Burnerを使ってHi-MDモードで録音した曲を、分けたりつなげたりしようとした。	パソコンから転送した曲や、MD Simple Burnerを使ってHi-MDモードで録音した曲は、本機で分けたりつなげたりすることはできません。
STOPボタンを押してください	PUSH STOP BUTTON	専用USBケーブルが接続されている状態で、本機がディスクの情報を記録しているときに、OPENつまみをずらしてふたを開けようとした。	操作は、「システムファイルの書込み中です」が消えてから行ってください。
TOCデータに異常があります	TOC DATA ERROR	ディスク情報を正しく読み取れなかった。	他のディスクを入れてください。ディスクの内容を全て削除してよいときは、記録されている内容を全て削除してください（61ページ）。
+5℃～+35℃内で充電してください	CHARGE +5℃~+35℃ 41F~95F	指定温度ではないところで充電しようとした。	指定温度の範囲内（+5℃～+35℃）で充電してください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

- 調子が悪いときはまずチェックを
  この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。
- それでも具合の悪いときは
  お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
- 保証期間中の修理は
  保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- 保証期間経過後の修理は
  修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。
- 部品の保有期間について
  当社ではポータブルミニディスクレコーダーの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。

知っておくと便利です

ここではポータブルMDレコーダーをお使いになる際に知っておくと便利な情報を、Q&A形式で簡単に説明します。

Hi-MD/MD一般

Q1: Hi-MDとは？

A1: Hi-MDとは、新しいミニディスクのフォーマットです。
従来のミニディスクから、ディスクの記録方式を変え、更に長時間の録音が可能になりました。また、パソコンの外部機器として、音楽データ以外のデータ（例えば、テキストデータや画像データ）もミニディスクに記憶することができるようになりました。
Hi-MDの特徴については、同梱の「Hi-MDウォークマンでこんなことができます」をご覧ください。

Q2: ATRAC3plusとは？

A2: ATRAC3plusとは、ATRAC3を更に発展させたオーディオ圧縮技術です。
これまでのATRAC3（本機のLP2/LP4ステレオモード）の圧縮率が、CDの1/10だったのに対し、ATRAC3plus（本機のHi-SP/Hi-LPステレオモード）はCDをベースに比較すると、1/20という高い圧縮率かつ高音質を実現しています。

Q3: Hi-MDモードとMDモードとは？

A3: 本機は「Hi-MDモード」と「MDモード」の2つのモードを持っています。動作モードは挿入されたディスクによって切り替わります。
- Hi-MD規格専用1GBディスクを入れた場合は、自動的にHi-MDモードになります。
- 従来の60/74/80分ディスクを入れた場合は、次のようになります。

ディスクの種類	動作モード
ブランクディスク	メニューの「ディスクモード」*の設定に従います。 ➡ パソコンを使わずに本機で録音するときは「ディスクモード」の設定を「Hi-MD」にして、動作モードをHi-MDモードにしてください。
Hi-MDモードで録音されたものが入っているディスク	Hi-MDモード
MDモードで録音されたものが入っているディスク	MDモード ➡ 本機では録音できません。付属のソフトウェアを使うと「MDモード」で録音できます。

* ディスクモードについて詳しくは「ディスクモードを選ぶ」（69ページ）をご覧ください。

Q4: リニアPCMとは？

A4: デジタル圧縮しない音声記録方式です。この方式で録音すると、CDと同じ音質を楽しむことができます。

Q5: 「システムファイル」とは？

A5: 音声以外の情報を記録するミニディスク上の領域です。
どの曲が何曲目でディスクのどこにあるかなどを記録しています。ミニディスクが本だとすると、索引や目次にあたります。
録音やトラックマークの記録・削除、曲の移動などの際、ミニディスクレコーダーはシステムファイルの書き換え作業を行います（この間は表示窓に「システムファイルの書込み中です」が表示されます）。この間はディスクへの記録をしていますので、衝撃を与えたり、電源を抜いたりしないでください。記録が正しく行われないばかりか、ディスクの内容が失われることがあります。

Q6: サンプリングレートとは？

A6: サンプリングレートとは、1秒間の音声をどれだけの量のデジタル信号にするかを表す数値です。
一般に数値が大きいほど高音質になります。サンプリングレートの異なる機器同士では、通常デジタル信号によるダビングはできません。これを可能にするのが、サンプリングレートコンバータです。コンバータは、デジタル信号を他のサンプリングレート用のデジタル信号に変換します。本機はこのコンバータを内蔵しています。光デジタル入力端子に入ってきたサンプリングレートの異なる信号（BSチューナー:32kHz, DAT:48kHzなど）は、コンバータによって、MDのサンプリングレート（44.1kHz）に変換されて録音されます。

Q7: ATRAC/ATRAC3用DSP TYPE-Sとは？

A7: ソニーのハイスペックMDデッキに搭載されているATRAC用DSP TYPE-Sを採用。
MDLPモードや132/105/66 kbpsで転送された曲の再生時に高音質で楽しめます。また、このDSPにはATRAC用DSP TYPE-Rの演算能力も継承されていますので、MDモードの標準録音モードでの再生にも優れています。

Q8: Net MDとは？

A8: パソコン内に入っている音楽データを、USBケーブルを介してミニディスクに録音できる規格です。
従来のMDが録音できる音源の種類は、マイクやアナログ入力からのアナログ音源または、音楽CDなどからのPCM音源のみだったため、パソコンからの録音は不可能でした。
しかし、「OpenMG」[1)]と「Magid !te」[2)]という著作権保護技術に基づいた音楽管理ソフト（SonicStageなど）を使って「ATRAC」[3)]、「ATRAC3」[3)]という音楽データの形式に変換することにより、MDへの録音が可能となりました。

[1)] パソコンに取り込まれたCDなどの音楽データを管理するための著作権技術
[2)] パソコンとNet MD機器の間で、お互いが著作権保護に対応しているかの認証を行う技術
[3)] 従来のMDの録音時に変換される形式

録音

Q1: MDでは何が録音できるの？

A1: アナログ入力とデジタル入力、両方の録音ができます。本機ではアナログ入力、デジタル入力に、LINE IN(OPT)ジャックを使います。

アナログ入力

	録音元	出力端子	形状	使うケーブル[1]
アナログ入力	テレビ、ラジオ、カセット、CD、MD、ラジカセ、ステレオコンポ、アンプなど	LINE OUT AUX OUT REC OUTなど	ピンジャック L R	ピンプラグ←→ステレオミニプラグ（RK-G129など）
			ステレオミニジャック	ステレオミニプラグ←→ステレオミニプラグ（RK-G136など）
		HEADPHONES Phones 🎧など[2]	ステレオミニジャック[3] (Headphones)	ステレオミニプラグ←→ステレオミニプラグ（RK-G136など）
	マイク	—	—	マイク：ステレオミニプラグ（ECM-719など）

[1] 詳しくは、79ページをご覧ください。
[2] 録音レベルを調節してください。詳しくは、39ページをご覧ください。
[3] ヘッドホンジャックの穴径が3.5mmより太いとき（穴径6.3mm）は、プラグアダプターPC-234SまたはPC-234HSをお使いください。

デジタル入力

	録音元	出力端子	形状	使うケーブル[1]
デジタル入力	CD、MD、DAT、DVD、BS、CS放送など	OPTICAL OUT DIGITAL OUT など[2]	光角型ジャック	光角型プラグ←→光ミニプラグ（POC-15ABなど）
			光ミニジャック	光ミニプラグ←→光ミニプラグ（POC-15Bなど）
	パソコン[3]	USB	USB	専用USBケーブル（Hi-MD/Net MD機器に付属）

[1] 詳しくは、79ページをご覧ください。
[2] 同軸（COAXIAL）の出力端子からは録音できません。
[3] Hi-MD/Net MD対応機器でのみ録音できます。

Q2: デジタル録音とアナログ録音は何が違うの？

A2: デジタル録音（光デジタル入力）とアナログ録音（アナログ入力）では、次のような違いがあります。

入力の種類 / 相違点	光デジタル入力	アナログ入力（LINE IN）
録音もとから送られる信号	デジタル信号	アナログ信号 CDなどデジタル方式のものを録音もととしても、本機にはアナログ信号として送られる。
頭出しマーク（曲番）のつきかた[1]	• 音源がCDやMDの場合、録音もとと同じ場所に自動的につく。 • 音源がCDやMD以外の場合、2秒以上の無音（101ページ）や小さな音が続いた場所につく。 • 録音を一時停止したところで自動的につく。（シンクロ録音中は3秒以上の無音が続いた場合）	• 2秒以上の無音（101ページ）や小さな音が続いた場所につく。 • 録音を一時停止したところで自動的につく。
録音される音の大きさ	録音もとと同じ。 手動でも調節できます（デジタルRECレベルコントロール）（「手動で録音レベルを調節する」39ページ）。	自動調節される。 手動でも調節できます（「手動で録音レベルを調節する」39ページ）。

[1] 不要なマークがついた場合、録音後に消してください（「曲を１つにする」63ページ）。

ご注意

次のような場合、録音もとと同じ位置に頭出しマーク（曲番）が記録されないことがあります。
- 一部のCDプレーヤーやマルチディスクプレーヤーから、光デジタル入力で録音する場合
- CDやMDソフトをプログラム演奏などにして光デジタル入力で録音する場合（このような場合には、録音もとを通常の再生状態にしてミニディスクに録音してください。）
- BS、CS放送の番組を光デジタル入力で録音する場合

Q3: ステレオプラグとモノラルプラグの見分けかたは？

A3:

Q4: 1枚のディスクに録音できる時間は？

A4: ディスクの種類と録音／転送モードによって録音時間は異なります。次の表で録音時間を確認してください。

Hi-MDモードでお使いの場合

本機で録音する場合		録音時間			
本機での録音モード	コーデック／ビットレート	Hi-MD規格専用1GBディスク	80分ディスク	74分ディスク	60分ディスク
PCM	リニアPCM/1.4Mbps	約1時間34分	約28分	約26分	約21分
Hi-SP	ATRAC3plus/256kbps	約7時間55分	約2時間20分	約2時間10分	約1時間40分
Hi-LP	ATRAC3plus/64kbps	約34時間	約10時間10分	約9時間20分	約7時間40分

パソコンから転送する場合	録音時間[1]			
コーデック／ビットレート	Hi-MD規格専用1GBディスク	80分ディスク	74分ディスク	60分ディスク
リニアPCM/1.4Mbps	約1時間34分	約28分	約26分	約21分
ATRAC3plus/256kbps	約7時間55分	約2時間20分	約2時間10分	約1時間40分
ATRAC3plus/64kbps	約34時間	約10時間10分	約9時間20分	約7時間40分
ATRAC3plus/48kbps	約45時間	約13時間30分	約12時間30分	約10時間
ATRAC3/132kbps	約16時間30分	約4時間50分	約4時間30分	約3時間40分
ATRAC3/105kbps	約20時間40分	約6時間10分	約5時間40分	約4時間40分
ATRAC3/66kbps	約32時間40分	約9時間50分	約9時間	約7時間20分
MP3/128kbps	約17時間	約5時間	約4時間30分	約3時間30分

[1] 1曲4分の曲を転送した場合

MDモードでお使いの場合

本機ではパソコンを使わずに、MDモードで録音することはできません。

パソコンから転送する場合	録音時間[1]		
コーデック／ビットレート	80分ディスク	74分ディスク	60分ディスク
ステレオ転送ATRAC/292kbps	約1時間20分	約1時間14分	約1時間
ATRAC3/132、105kbps	約2時間40分	約2時間28分	約2時間
ATRAC3/66kbps	約5時間20分	約4時間56分	約4時間

[1] 1曲4分の曲を転送した場合

Q5: 録音できるMDフォーマットは？

A5: ディスクの種類と録音方法によって異なります。次の表で確認してください。

ディスク	録音方法	フォーマット	再生する機器		
			Hi-MD対応機器[1]	MDLP対応機器[2]	MD機器
Hi-MD規格専用1GBディスク	本機で録音する場合	Hi-MD	○	×	×
	パソコンから転送する場合	Hi-MD	○	×	×

次ページへつづく

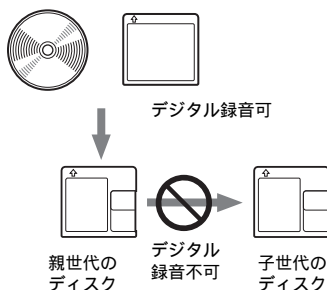
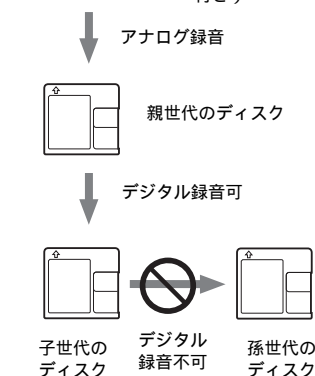
ディスク	録音方法	フォーマット	再生する機器		
			Hi-MD対応機器[1]	MDLP対応機器[2]	MD機器
60/74/80分ディスク	本機で録音する場合	Hi-MD	○	×	×
	パソコンから転送する場合	Hi-MD	○	×	×
		MDLP	○	○	×
		MD	○	○	○

1) Hi-MD AUDIOまたはHi-MDロゴのある機器
2) MDLPまたはMDLPロゴのみある機器

Q6: 光デジタル出力ジャックがない機器から録音できますか？

A6: デジタル録音はできませんが、アナログ出力ジャック(LINE OUT/AUX OUT/REC OUT/CD OUT ジャック、ヘッドホンジャックなど）を使えば、アナログ録音はできます。
ヘッドホンジャックから録音する場合、音が歪まないように、つないだ先の機器の音量を調整してください。
録音レベルの調整のしかたについて詳しくは、「手動で録音レベルを調節する」(39ページ）をご覧ください。

Q7: デジタル録音をしたディスクを他のディスクに録音できますか？

A7: CDや再生専用MDなどの市販ソフトから、光デジタル入力端子を使って録音したミニディスクは、さらに他の機器でデジタル録音することはできません。
本機は、音楽ソフトの著作権を保護するため、「シリアルコピーマネジメントシステム(SCMS)」に準拠しています。光デジタル入力で録音したミニディスクを別のミニディスクに録音するには、アナログ入力（LINE IN）を使ってください。

ご注意

著作権を保護するためのコピーコントロール信号を除去、改変してコピーを作成することは、個人として楽しむ目的であっても法律で禁止されています。

Q8: MDの曲番はどうやってつくの？

A8: CDなど曲番のついたメディアから録音した場合、レコーダーは次のような条件で 曲番をつけます。
デジタル入力からの録音→録音元のCDなどと同じところにつく。
アナログ入力からの録音→2秒間以上無音状態が続き、その後音声が入ってきたときにつく。
なお、CDで「–0:03」から新しい曲番が始まっているときは、0:00になった時点でMDに新しい曲番がつきます。

Q9: 無音レベルとは？

A9: 本機ではアナログ入力時は約4.8 mV（Manual REC時を除く）、光デジタル入力時はフルビットを0 dBとした場合、約–89 dB以下の入力レベルです。

Q10: 曲数も録音時間も余裕があるのに、「曲数制限を超えています」表示が出て、録音が止まるのはなぜ？

A10: システム上の制約です。
同じディスクで録音、消去をくりかえすと、1曲のデータが連続して記録されず、空いているところに分割して記録されることがあります。ミニディスクは、このような場合でも離れたデータをすばやく探し出し、順に再生します。ただし、分割したそれぞれのデータは曲の区切り（1曲）と同じ扱いになり、データが全部で2,047個（Hi-MDモードでお使いのディスクの場合）になると、録音できなくなります。さらに曲を追加するには、不要な曲を消して録音してください。

再生

Q1: 編集した曲を再生しながら早送り、早戻しすると、音がとぎれるのはなぜ？

A1: システム上の制約です。
再生しながら早送り、早戻しするときは通常より高速で再生するため、短い曲がディスク上のいろいろなところに点在していると、探すのに時間がかかり、音がとぎれることがあります。

編集

Q1: トラックマーク（曲番）が消せないのはなぜ？

A1: 以下の場合はシステム上の制約により、トラックマークが消せません。

- つなごうとする曲のデータがディスク上に分散し、それぞれのデータの長さ*が短いとき、その曲の頭出しマーク（曲番）を消して前の曲とつなぐことができない場合があります。
  * データの長さが次のような場合、曲をつなぐことができないことがあります。

	Hi-MDモードの場合			MDモードの場合		
録音モード	リニアPCM	Hi-SP	Hi-LP	SP	LP2/モノラル	LP4
	9秒以下	8秒以下	32秒以下	12秒以下	24秒以下	48秒以下

- 異なる録音モード（例えば、リニアPCMとHi-SPなど）で録音された曲の間の頭出しマークは消すことができません。

Q2: 曲を消しても、ディスクの録音できる残り時間が増えないのはなぜ？

A2: システム上の制約です。
ディスクの録音できる残り時間を表示するとき、12秒以下（SP録音時）、24秒以下（LP2録音、モノラル録音時）、または48秒以下（LP4録音時）の部分は無視します。このため短い曲を何曲消しても録音できる残り時間が増えないことがあります。

Q3: ディスクに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間（60分、74分、80分）に一致しないのはなぜ？

A3: システム上の制約です。
通常、録音はSP録音時で約2秒、LP2録音またはモノラル録音時で約4秒、LP4録音時で約8秒を最小単位としてディスクに記録します。録音を止めたところでは、記録の最後の部分が実際には2秒（4秒または8秒）に満たない場合でも約2秒（4秒または8秒）分のスペースを使います。また、録音を止めた後再び録音を始めるときには、録音を始めたところで約2秒（4秒または8秒）分のスペースを空けて記録を始めます。これは、録音を始めるときに誤って前の曲を消さないためです。このため、実際に録音できる時間は録音を止めるたびに、最大録音可能時間よりも最大で6秒（12秒または24秒）ずつ短くなります。

Q4: はなれている曲やグループを1つにまとめるには？

A4: あらかじめ、まとめたい曲やグループをとなり合わせに連続させた後、グループ設定を行います。
詳しくは「曲順を変える」（58ページ）、「グループの順番を並べかえる」（59ページ）をご覧ください。

Q5: グループ名はどうやって記録される？

A5: MDモードでお使いの場合、グループ情報は「ディスク名」としてディスク名の記録領域に自動的に記録されます。具体的には次のような文字列が書き込まれます。

ディスク名の記録領域
例）

0;Favorites//2-4;Rock//6-9;Pops//

①　②　③

①ディスク名：「Favorites」
②2曲めから4曲めのグループ名：「Rock」
③6曲めから9曲めのグループ名：「Pops」

グループがあるディスクをグループ機能未対応機器で読み込むと、前記の文字列がそのまま「ディスク名」として表示されます。
本機では、通常はこの文字列は表示されませんが、ディスク名の編集中にREC(+►)/T MARKボタンを2秒以上押すと、この文字列を表示することができ、グループ名を直接編集することができます。

Q6: 新しいグループを設定できないのはなぜ？

A6: ディスク全体の入力文字数の合計が制限を超えたためかもしれません（システム上の制約）（MDモードの場合のみ）。
A5のとおり、グループ情報はディスク名の領域を使って行われます。ディスク名とグループ名、曲名、アーティスト名、アルバム名は同じ領域に記録され、最大文字数はすべての名前の合計で約1,700文字です。この文字数を超えた場合、グループ設定しようとしてもできません。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

アルファベット・数字